

仙台市小学生交通環境学習推進委員会 第3回委員会

平成23年2月16日(水)
午前10時00分～12時00分
仙台市本庁舎2階第二委員会室

次 第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 報告事項
 (1) 第2回委員会での意見対応
4. 議 事
 (1) 今年度実施した授業概要および課題について
 (2) 平成23年度の取り組みについて
 (3) その他
 1) 次回開催日程の確認
 2) 今後の予定
5. 閉 会

資 料 1 仙台市小学生交通環境学習について

参考資料 1 第2回仙台市小学生交通環境学習推進委員会での意見と対応
 2 授業実施概要
 3 平成22年度の授業で実施した教材一式
 4 低学年のアンケート(バスクイズ)結果概要

仙台市小学生交通環境学習推進委員会 委員名簿

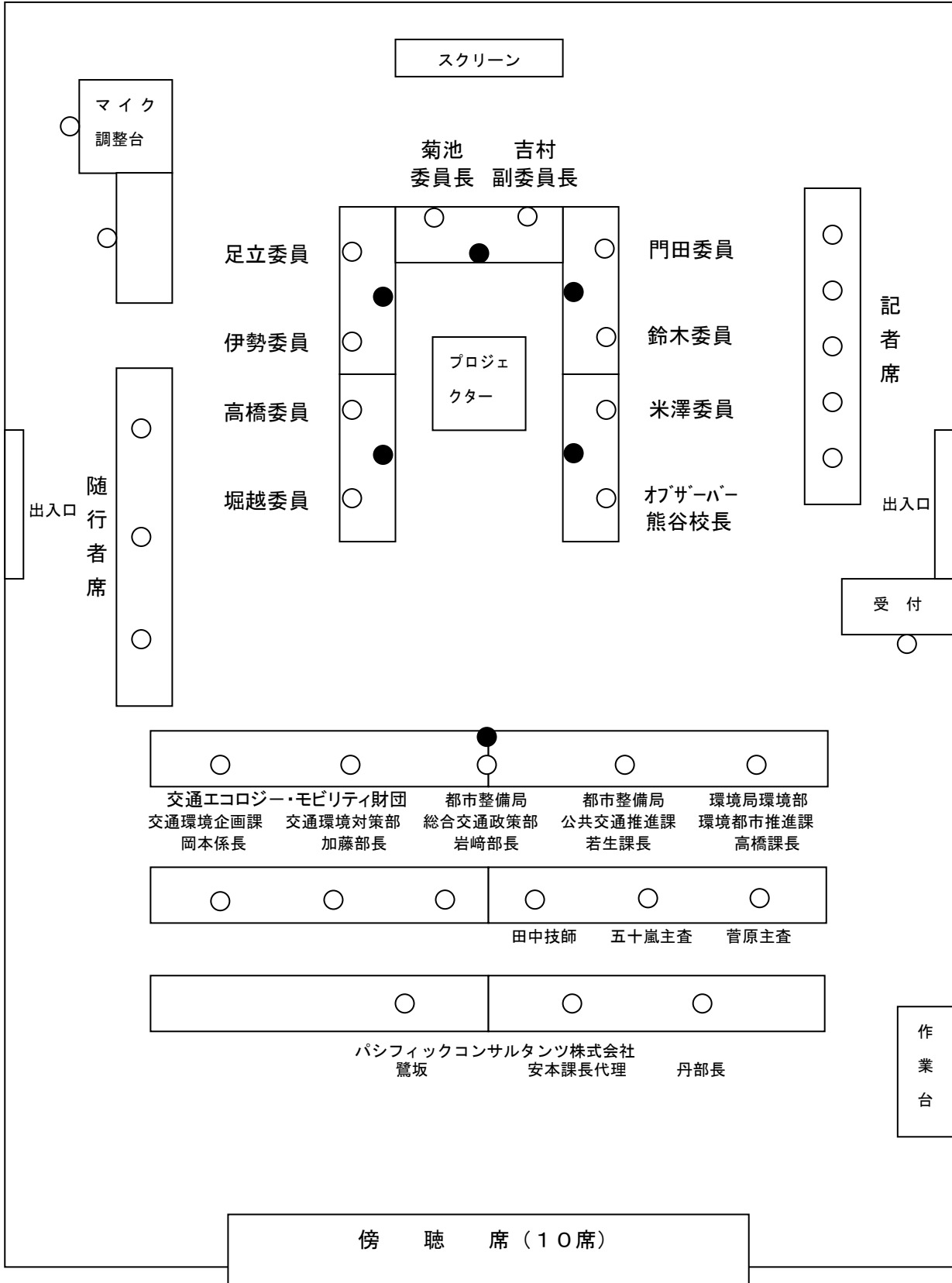
	所属・役職名	氏名
委員長 学識経験者	東北工業大学 工学部建設システム工学科 准教授	きくち あきら 菊池 輝
副委員長 学識経験者	宮城教育大学 大学院教育学研究科 教授	よしむら としゆき 吉村 敏之
市民団体等	NPO法人 まちづくり政策フォーラム 理事	あだち ちかこ 足立 千佳子
市民団体等	財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク 理事	かどた ようこ 門田 陽子
市民団体等	NPO法人 まなびのたねネットワーク 代表理事	いせ みゆき 伊勢 みゆき
小学校関係	仙台市立 鶴巻小学校 校長 (仙台市小学校教育研究会 生活科・総合的な学習研究部会 会長)	よねざわ たかお 米澤 孝雄
小学校関係	仙台市立 向山小学校 校長 (仙台市小学校教育研究会 社会科部会 会長)	たかはし きょうじ 高橋 享治
行政機関	国土交通省東北運輸局交通環境部環境課 課長	すずき よしお 鈴木 義男
行政機関	仙台市教育局学校教育部教育指導課 課長	ほりこし せいじ 堀越 清治
オブザーバー	仙台市立 広瀬小学校 校長	くまがい かずひこ 熊谷 和彦

仙台市小学生交通環境学習推進委員会 事務局出席者名簿

	所 属 ・ 役 職 名	氏 名
事務局	交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部長	加藤 信次
	交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境企画課 企画係長	岡本 英晃
	環境局環境部環境都市推進課 課長	高橋 泰
	都市整備局総合交通政策部 部長	岩崎 裕直
	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 課長	若生 孝志
	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 主査	菅原 洋二
	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 主査	五十嵐 大
	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 技師	田中 仁
	パシフィックコンサルタンツ株式会社 東北支社	

仙台市小学生交通環境学習推進委員会 第3回委員会 席次表

平成23年2月16日(水) 10:00~
 仙台市役所本庁舎2階第二委員会室



第3回

仙台市小学生交通環境学習推進委員会

＜小学生への交通環境学習について＞

平成23年2月16日

仙 台 市

目次

<報告事項>

1 第2回委員会での意見対応

<議 事>

1 今年度実施した授業概要および課題

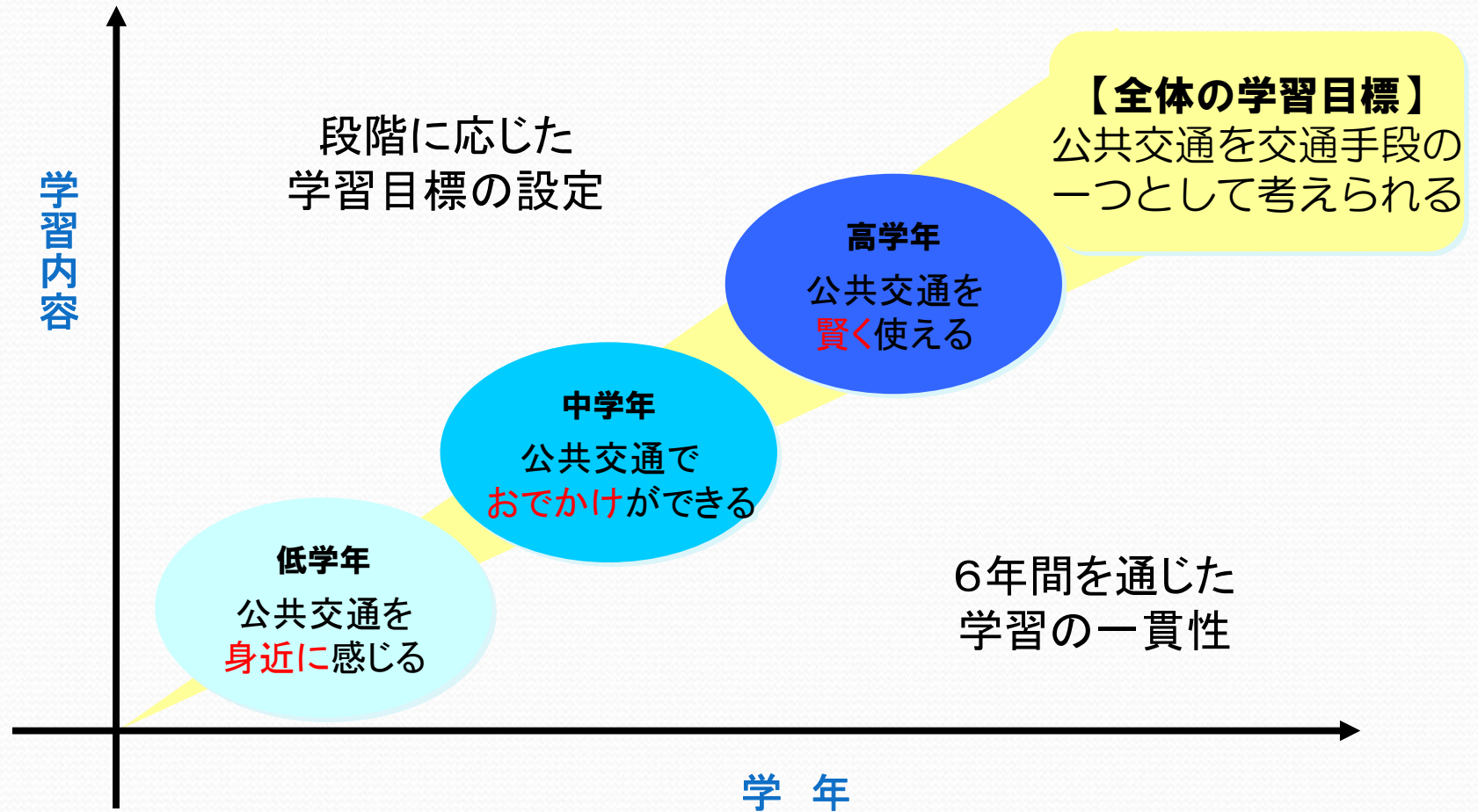
2 平成23年度の取り組みについて

3 その他

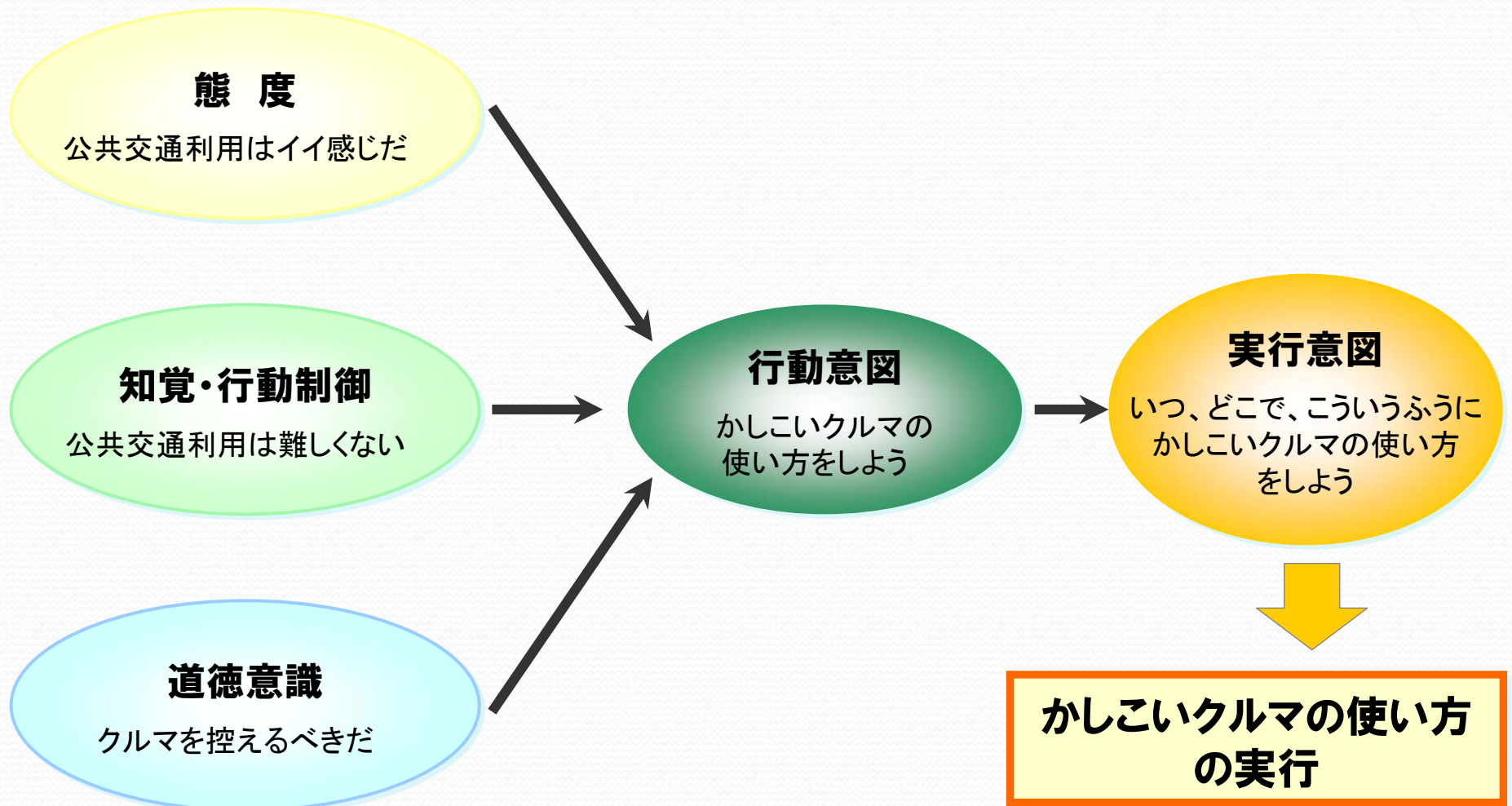


<報告事項>

1 第2回委員会での意見対応



<参考>



■交通環境学習の実施検討方針

各校の授業計画の中に

“取り組みやすく、効果的に”

組み込んでいく

既存の授業内容に**交通環境学習をプラス**する

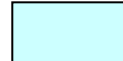
⇒ **継続的**かつ**広範**に**取り組みやすくなる**

⇒ **実効性の高いプログラムとして取り組んでいく**

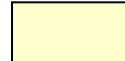
< 議 事 >

1 今年度実施した授業概要および課題

実施校	実施日	導入単元	使用教材	実施概要
鶴巻小学校 1年生	事前学習:12/2 乗車移動:12/9	国語	バスノート いろいろな のりもの 紙芝居	国語の「じどう車くらべ」に関連させた公共交通の学習。乗降方法、マナー学習を行い、後日路線バス(貸切)を利用した乗降体験。
広瀬小学校 2年生	事前学習:12/3 乗車移動:12/8	生活	バスノート 紙芝居	生活の「広瀬やさしさたんけんたい」の学習に関連させ、乗降方法、マナー学習を行い、後日路線バス(貸切)を利用した乗降体験を行い、公共施設見学。
鶴巻小学校 3年生	事前学習:2/10 2/15 乗車移動:2/18	社会科	バスノート じこくしらべ ワークシート	社会の「バスで出かけよう」の学習で、乗車方法、マナー学習、じこく調べ(インターネット)を行い、路線バスを使って、見学。
広瀬小学校 4年生	未実施	社会科		(宮城県の中の交通体系を学習する)
鶴巻小学校 5年生	事前学習:11/24 乗車移動:11/30	総合的な 学習	時刻しらべ 路線図	インターネットの公共交通機関サイトを使って乗車時刻を調べ、それぞれが乗車計画を策定。乗車移動では自宅から各グループが目的地へ移動し、一度集合後、各グループで帰宅。
広瀬小学校 5年生	未実施	社会科		(放送局(NHK)見学に関連させた乗車計画を策定する学習)



実施



実施予定

■低学年での取り組み

鶴巻小学校1年生

①事前授業：いろいろなのりもの（国語：じどう車くらべ）

PPTを使い「いろいろなのりもの」について学習を行い、公共交通についての知識を学習した後にバスノートの内容を用いて、乗降方法・車内マナーの学習を行った。

学習終了後に、床にテープでバスを模して乗降練習、車内マナーの練習を行った。



鶴巻小学校 1年生

②乗車体験（目的地：地下鉄車両基地、市バス霞の目営業所）

車内で紙芝居を使った、公共交通の役割の学習やバスクイズ、地下鉄車両基地の見学やバス営業所での整備状況、洗車体験など公共交通への関心を高める取り組みを行った。また、降車ボタンを押したり、お金を模した紙片を料金箱に入れるなど、本物の路線バスの乗車の体験学習を行った。



広瀬小学校 2年生

①事前授業：みの回りにあるみんなのための場所やもの（生活：広瀬やさしさたんけんたい）

公共施設に関する学習の中で、バスノートの内容を用いて、乗降方法・車内マナーの学習を行った。



広瀬小学校2年生

②乗車体験（目的地：メディアテーク）

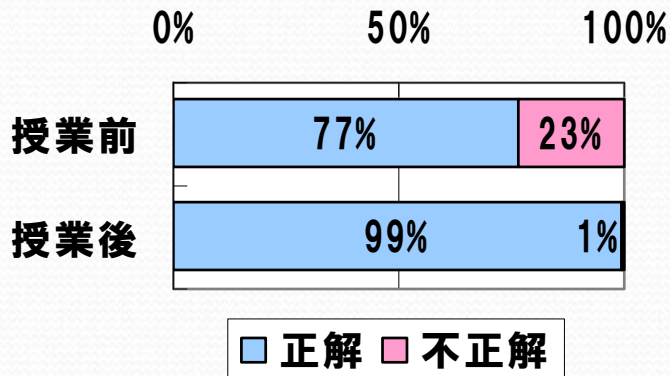
車内で紙芝居を使った、公共交通の役割の学習や、バスクイズによるバスへの関心を高める取り組みを行った。また、降車ボタンを押したり、お金を模した紙片を料金箱に入れるなど、本物の路線バスの乗車の体験学習を行った。



■ 低学年での取り組み成果

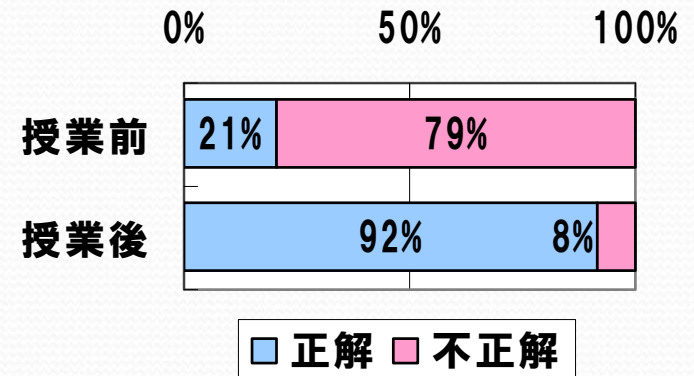
低 学 年

問. どこからバスにのるかな？



▲ 授業前・後の正解率

問. おかねやせいりけんをどこにいれるのかな？



▲ 授業前・後の正解率

※低学年(鶴巻小学校1年生:69名、広瀬小学校2年生:94名)の合計

■低学年での使用教材 等

①いろいろなのりもの(鶴巻小学校1年生)

電子黒板を活用して、いろいろな「乗り物」を紹介し、「公共交通機関」についての学習を行った。

②バスノート(鶴巻小学校1年生、広瀬小学校2年生)

従来のバスノートをもとに作業部会での意見をもとに「乗車から降車までの一連の流れを示す」「車内マナーについての項目を加える」等の改良を加え使用した。

③紙芝居(鶴巻小学校1年生、広瀬小学校2年生)

車内学習用の紙芝居。環境問題なども盛り込んだ内容。

■ 中学年での使用教材 等

①じこく調べ(鶴巻小学校3年生)

既存のまちづくり政策フォーラムで作成した「みんなでお出かけ調べ」をもとにインターネット検索画面をもとに操作マニュアルに特化したものを作成。
※鶴巻小学校での利用だけを想定しており、汎用性が低い。

②ワークシート(鶴巻小学校3年生)

調べた乗車時間等を書き込むワークシート。路線ルートや路線沿道の施設等を提示。

③バス路線図(鶴巻小学校3年生)

目的地までの距離などを測るなど活用。

■高学年での取り組み

鶴巻小学校5年生

①事前授業：時刻表調べ

事前の授業で「地底の森ミュージアム」「ユアテックスタジアム」を含む仙台市科学館までの経路を調べており、本授業ではインターネットを使って時刻調べを行った。



②乗車体験：自主活動（自宅～地底の森・ユアテック～科学館～自宅）

事前授業で自分たちがたてた乗車計画にそって、自宅から目的地までの移動を行い、科学館で一度集合した後、自宅まで各グループ毎に移動した。

■高学年での使用教材 等

①時刻調べ(鶴巻小学校5年生)

既存のまちづくり政策フォーラムで作成した「みんなでお出かけ調べ」をもとにインターネット検索画面をもとに操作マニュアルに特化したものを作成。
※鶴巻小学校での利用だけを想定しており、汎用性が低い。

②バス路線図(鶴巻小学校5年生)

目的地までの方位や距離などを測るなど活用。

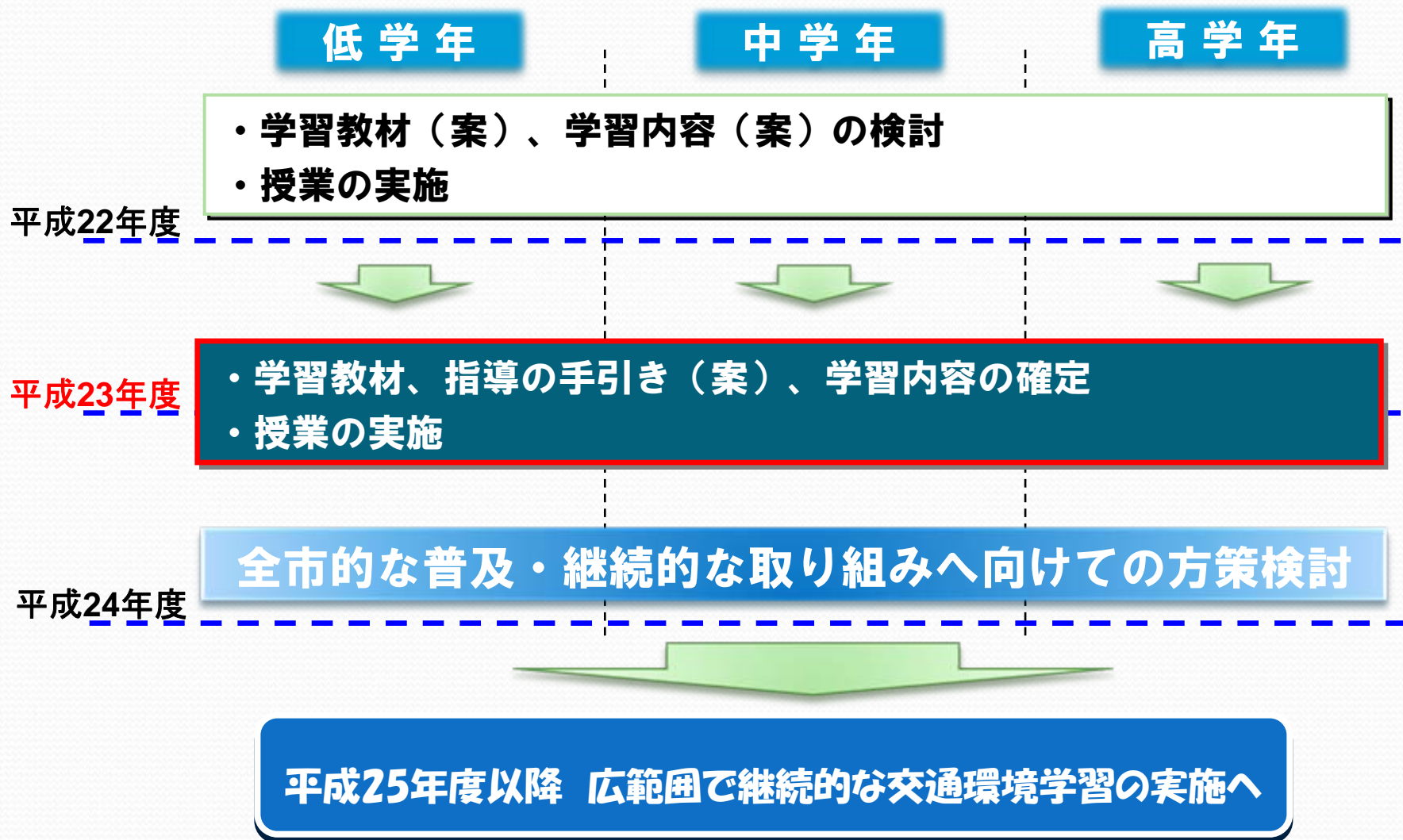
低 学 年

項 目	主な問題点・課題や意見 等
学習教材 等 について	<p>○車内ルールの説明を充実させる <先生からのご意見> ○環境問題を絡めるより、みんなの「乗り物」として捉えた方が分かり易い。○紙芝居の内容が難しかった。○電子黒板を利用した授業方法が楽、○教室での疑似体験教材の充実。</p>
授業実施について	<p><児童の集中力を持続させるため> ○電子媒体や張り出し資料などでの提供 ○疑似バス乗車体験できる教材の工夫 <先生からのご意見> ○事後の作文では、実に細かいところまで興味を持っており、保護者への報告も楽しそうだった。 ○料金支払いが難しかったようで、行き・帰り2回出来た事は有効 ○運転手さんへの質問の機会の創出</p>
その他	<p><先生からのご意見> ○低床バスの体験に興味を示しており、福祉的な内容の学習としても広げられるのでは。</p>

高 学 年

項 目	主な問題点・課題や意見 等
学習教材 等 について	<p>○テキストと別にワークシートを添付すると使いやすい ○「待ち時間」「上り・下り」の概念 ○路線図の読み方（自分の小学校の位置など） <先生からのご意見></p> <p>○50音での検索が分かり易い、○路線図と併用する事によって、方向や距離を把握できる、○全ての公共交通機関を一度に検索できるサイトがあると、親しみやすくなる。</p>
授業実施について	<p>○事前授業時のPC台数の制限 <先生からのご意見></p> <p>○乗車移動については大きな問題もなく、スムーズに移動できた。 ○自主活動に対する自信を深めた。○秋のジュニアパスは校外学習でも有効であり、通年使える様にして欲しい。</p>
その他	<p>○仙台駅前バスプールの場所も、一緒に調べられるとよい。</p>

2 平成23年度の取り組みについて



(1) 平成23年度実施する授業計画の方針(案)

先生の負担を軽減して、どの学校でも、どの先生でも
取り組みやすい学習プログラムにしていく。

	目 標	項 目	授業計画の方針(案)
低 学 年	公共交通を 身近に感じる	①校外学習にあわせた 乗車体験学習の確立	乗車体験を通じて、公共交通機関を身近に 感じてもらい、親しみを増やす。
中 学 年	公共交通で おでかけが できる	①社会科授業での組み込 み検討 校外学習と実際の公共交通 機関への乗車を体験する。	公共交通路線網と自分たちの住んでいるま ち「仙台」の関係を理解し、公共交通を使 った移動を授業の中で組み込む。
高 学 年	公共交通を 賢く使える	①経路・時刻表調べ ②公共交通の役割を教え る。	経路・交通手段選択時に「環境負荷を減ら す」等についての要素を盛り込んでいき、 自分たちで乗車プランの作成を行う。

(2) 平成23年度に向けた具体的な取り組み

	目 標	項 目	平成23年度の取り組み
低 学 年	公共交通を 身近に感じる	校外学習を活用した 乗車体験学習の確立 ①多様な媒体での教材提供 ②疑似バス乗車体験できる ③指導の手引きの作成	①バスノートの電子化、バスシート（張り出し用）の作成や、車内学習用の教材の検討 ②模型、バスマット（疑似乗車）の検討 ③乗車体験を基礎にした教科単元への組み込みと、授業計画・指導方法の手引き
中 学 年	公共交通で おでかけが できる	校外学習を活用した 実施単元の検討 ①社会科授業での組み込み	①「わたしたちのまち仙台市」を活用に向けた検討
高 学 年	公共交通を 賢く使える	自主活動の導入検討 自主活動内容の確立 ①経路・時刻表調べ ②経路や交通手段毎の“違い”を理解して貰える	①複数の経路選択ができ、調べられる手引き書等の作成 ②複数の経路や交通手段を選択でき、それぞれの経路や交通手段によって、運賃・時間・環境への負荷などの変化を考えて貰う

(3) 実施小学校について【候補】

平成23年度は今年度実施のご協力を頂いた、「鶴巻小学校」「広瀬小学校」に加え、新規に「向山小学校」および他1校の計4校に拡大して実施していきたい。

<継続の依頼>

- 鶴巻小学校
- 広瀬小学校

<新規の依頼>

- 向山小学校
- 未定

3 その他

■平成23年度への取り組みスケジュール(案)

平成23年2月16日

第3回 仙台市小学生交通環境学習推進委員会

平成23年2月下旬

第4回 作業部会

・今年度の振り返りと次年度以降の年間を通した授業計画の検討

平成23年度

平成23年4月～5月(予定)

平成23年度 実施校との調整

・学年(低・中・高)毎の組み込む教科単元、学習項目、学習教材の検討

平成23年5月(予定)

第4回 仙台市小学生交通環境学習推進委員会(取組方針)

平成23年6月～平成23年12月

作業部会の開催・授業計画に基づく授業の実施

平成23年秋頃(予定)

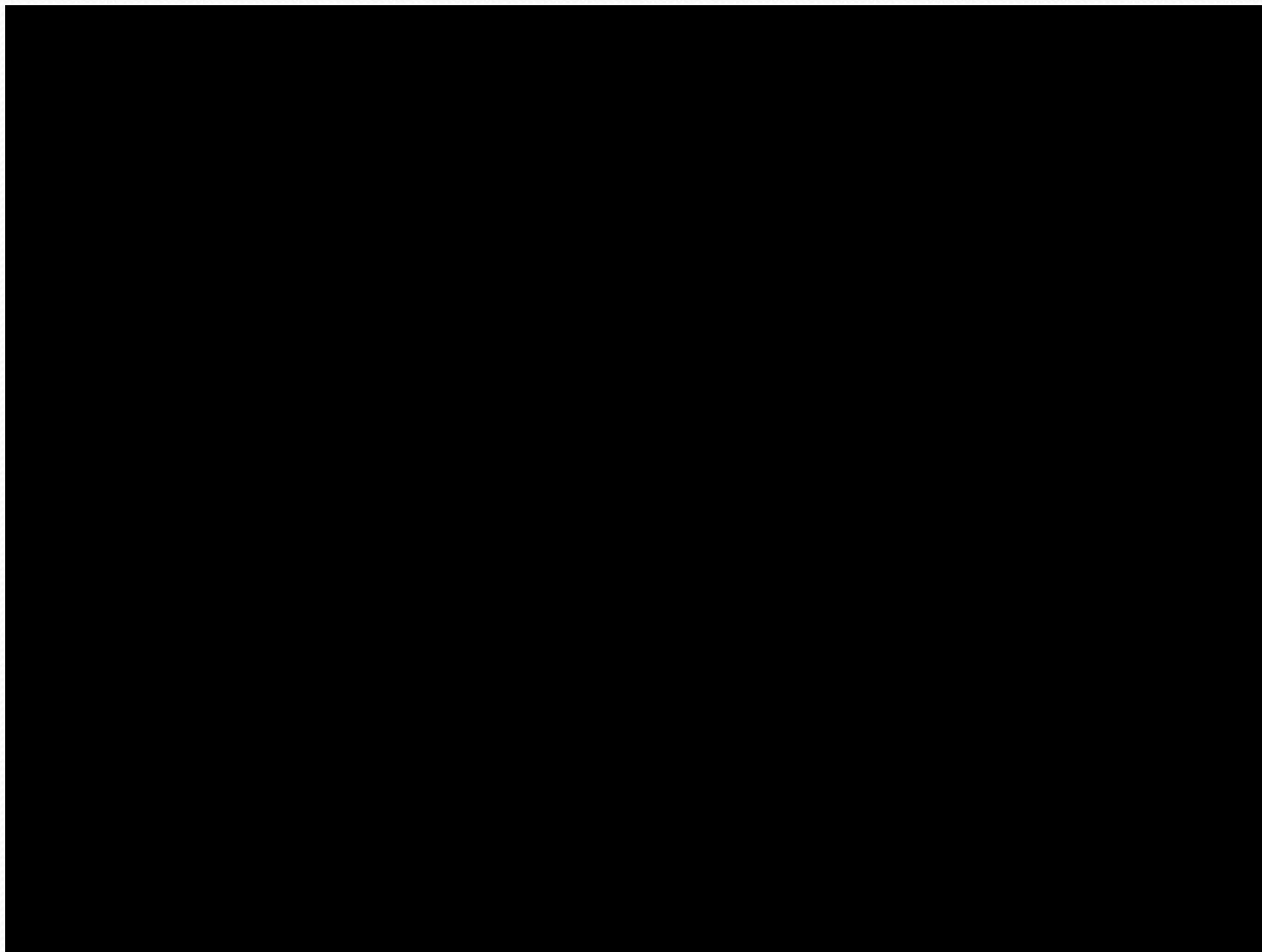
第5回 仙台市小学生交通環境学習推進委員会(中間報告)

平成24年2月(予定)

第6回 仙台市小学生交通環境学習推進委員会(年度報告)

<参考>

かしこい公共交通の利用者になろうよ



第3回 仙台市小学校交通環境学習推進委員会議事録

日 時	平成23年2月16日(水) 10:00~12:00
会 場	仙台市本庁舎2階 第二委員会室
出席委員	菊池輝委員, 吉村敏之委員, 足立千佳子委員, 門田陽子委員, 伊勢みゆき委員, 米澤孝雄委員, 高橋享治委員, 鈴木義男委員, 堀越清治委員 [9名] 【オブザーバー】熊谷 広瀬小学校校長
欠席委員	[0名]
事務局	交通エコロジー・モビリティ財団 加藤交通環境対策部長, 交通エコロジー・モビリティ財団 岡本交通環境企画課係長, 高橋環境都市推進課課長, 岩崎総合交通政策部部長, 若生公共交通推進課課長, 菅原公共交通推進課主査, 五十嵐公共交通推進課主査, 田中公共交通推進課技師
議 事	1 開会 2 あいさつ 3 報告事項 (1) 第2回委員会での意見対応 4 議事 (1) 今年度実施した授業概要および課題について (2) 平成23年度の取り組みについて (3) その他 1) 次回開催日程の確認 2) 今後の予定 5 閉会
配付資料	1 仙台市小学生交通環境学習について
参考資料	1 第2回仙台市小学生交通環境学習推進委員会での意見と対応 2 授業実施概要 3 平成22年度の授業で実施した教材一式 4 低学年のアンケート(バスクイズ)結果概要

1 開会

○事務局（菅原主査）

本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。まだ伊勢委員がこちらのほうにお見えになっておりませんが、定刻になりましたので、「第3回 仙台市小学生交通環境学習推進委員会」を開会いたします。

会議を始めるにあたりまして、お手元にお配りした資料の確認でございます。まず本日の議事次第でございます。本日出席の委員名簿、事務局出席者名簿、席次表と一緒に添付されております。資料1として「仙台市小学生交通環境学習について」というカラーの資料になります。また、参考資料1として「第2回仙台市小学生交通環境学習推進委員会での意見と対応」、参考資料2として「授業実施概要」、資料3として「平成22年度の授業で実施した教材」という事で、クリップで留められた資料となっております。また資料4として「低学年のアンケート（バスクイズ）結果概要」となっております。以上の資料についてご確認頂けますでしょうか。

それでは、次第の2番目、あいさつに移らせて頂きます。あいさつは本委員会の委員長である東北工業大学工学部建設システム工学科准教授の菊池輝様をお願い致します。

2 あいさつ

○菊池委員長

皆さまおはようございます。委員長をつとめさせてさせていただいております東北工業大学の菊池と申します。すでに皆さんご存知かもしれませんが、近々交通基本法という法案が与党から国会に提出される予定でございます。この交通基本法と言いますのは、賛否両論、議論する余地が多々あるようにも思われますけれども、そもそもこの交通基本法というものが検討されるに至った経緯と言いますか、その背景はどういうものだったかなという事を少し思い返してみました。自動車に過度に依存しているような交通体系、あるいは社会、まちというものをもう1度見直しましょう。そして今後の社会にふさわしい交通体系を構築していく必要性というものが背景にあったかと記憶しております。また、その中で交通が地球環境問題に与える影響というものを明確に取り入れて考えましょう、という事もその背景の中に含まれていたかと私は記憶しております。こういった事を振り返りますと、この委員会の目標としているところの延長線上にあるものが、交通基本法の思想であったのではないかなという風に感じております。法案が提出されるという事で、この交通環境に関する理解を深めて、それに対する対応行動をしていきたいと思いますという事は全国的な流れではございますが、この委員会の取り組みといたしましては、全国に先んじてと言いますか、全市的に広めるために非常に実践的で実証的な取り組みを進めております。本日は第3回をむかえる委員会でございますが、本日も皆さまから多様な視点でのご意見をいただき、それを取りまとめまして少しでも質の高い成果を出せるようにしていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いたします。それでは座らせていただきます。

委員会設置要綱第5条第4項の規定に基づきまして、本日も作業部会で色々ご苦労頂いております広瀬小学校の方から熊谷校長をオブザーバーとしてご出席頂きます事を

ご報告致します。よろしく願いいたします。

3 報告事項

○事務局（菅原主査）

ありがとうございました。

それでは続きまして「3. 報告事項」でございます。

前回、第2回の委員会での意見と対応の方向性について事務局より説明いたします。

○事務局（五十嵐主査）

はい。それではご説明させていただきます。

参考資料1をご覧ください。前回の委員会で頂いた主な意見及び指摘事項をまとめたものです。6年間を通した交通環境学習の目標についてや、実施方針について、また、今年度実施する授業計画についてご意見等を頂きました。

その中で、改めてご確認いただきたい内容としては、全体の学習目標の表現についてや、低学年から高学年までの目標との関係について、全体の流れが不明確とのご指摘の部分です。こちらについては、表現を修正させて頂きましたので報告させていただきます。

資料1の4ページをご覧ください。6年間を通じての小学生交通環境学習の目標としては、「公共交通を交通手段の一つとして考えられる」ようになる児童を育てる事を目標としています。その際、大きく低学年、中学年、高学年と3段階に分割し、それぞれの段階での目標を設定し、全体の目標に近づけていく事を考えております。

このような段階的な学習プロセスの理論的背景については、次の参考資料をご覧ください。この資料については、菊池先生より簡単にご説明をお願いいたします。

○菊池委員長

それでは資料の5ページ目ですね、参考と書かれたページをご覧ください。ここに書いてございますのは、私が交通の行動分析を専門にしておりますけれども、その分野です、どのようにしたら自動車から公共交通へ変換を促進出来るだろうかという事を検討するにあたっての、理論的な背景になってございます。まず1番左側に「態度」や「知覚・行動制御」とかありますけれども、一定の知識を付けるという事と、誤解を無くすという事ですね。公共交通を利用していない人にとっては公共交通って非常に不便だと思って思いますが、使ってみると意外と難しくないなという思いがまず心の障壁を下げる事になります。まずこれが第一歩なんですけれども、それが出来上がると今度はかしこく車を使おうという、行動に対する意図が醸成されます。これまでの心理学の理論ですと、この行動意図からすぐ実行と、行動に現れるという事なんですけれども、実はなかなかこれをしようと思っても行動には移せないわけですね。我々の行動を振り返ってみても、あれをやろうと決めてもたぶん半分くらいしか実際に実行出来ていないという現状があると思うのですけれども。じゃあ何が違うのかというと、実行意図というものがございまして、具体的にこういうかくかくしかじかな使い方をしようという、自分でデザイン出来なければ行動を起こせないという事でこの実行意図というのが

入ってきております。我々こう研究している中で色々試行錯誤しながらですが、最終的に現在用いているのはこのような心理的なプロセスで行動を変えてもらおう、という事なんです。1枚戻っていただきまして、低学年・中学年・高学年という流れを考えますと、まさにこのプロセスに沿っているように設計しております。簡単ではございますが、以上で各学年の学習目標とその理論的背景の関係についてご説明させていただきました。

○事務局（五十嵐主査）

それでは続きまして6ページの説明をさせていただきたいと思います。

先程説明した目標に近づけるため、どのように学校教育の中に組み込んでいくのかを示す実施や検討の方針となります。前回のご提案から修正を加え「取り組みやすく、効果的に」というフレーズに変更しております。最終的には、仙台市全市に広範に取り組めるもの、また委員会でもご議論のあった「知識だけではなく体験を通じた学習として、実効性の高い学習プログラムとして取り組んでいく事を考えております。このような考えのもと、新たな教科单元として「交通環境学習」というものを、導入して頂くのではなく、既存の教科单元の中に関連づけしパッケージングした学習プログラムとして提供していきたいと考えております。そうすることにより、小学校の先生方が通常行っている授業準備の負担を低減でき、先生にとっても取り組みやすく、ここで検討している目標が達成できるものになると考えております。

以上です。

○事務局（菅原主査）

それでは、次第の4番目、議事に入りたいと思います。本委員会の議事進行は委員長による進行となっておりますので、これからの進行をお願いしたいと思います。菊池委員長、よろしくお願い致します

4 議事

(1) 今年度実施した授業概要および課題について

○菊池委員長

それでは議事の方に入っていく前に、まず会の成立に関する件でございます。本日はまだ伊勢委員が来られていませんけれども、定足数に達しているため会議の成立している事を報告させていただきます。

また、本日の議事録署名人を指名させていただきます。前回は伊勢委員にお願い致しましたので、名簿順で米澤委員に議事録署名人をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○米澤委員

よろしくお願いいたします。

○菊池委員長

会議の公開・非公開について確認させていただきます。

本委員会については、原則として公開とし、特定の個人を識別し得る情報を扱う場合などに関することがあれば、必要に応じて非公開とすることでよろしいでしょうか。

それでは早速、議事の方に入っていきたいと思います。本日の議事は次第にあります2つになります。それでは1つ目の議事であります「今年度実施した授業概要および課題について」事務局の方から、ご説明をお願い致します。

○事務局（田中技師）

はい。それではご説明させていただきます。

資料1の8ページをご覧ください。前回ご説明させていただきましたが、今年度は鶴巻小学校、広瀬小学校の2校のご協力を頂きまして2校3学年、計6回の授業計画を検討して参りました。現在、鶴巻小学校1年生、広瀬小学校2年生、鶴巻小学校5年生で既に授業を実施しており、鶴巻小学校の3年生では2月10日、2月15日に事前授業を実施し、明後日18日に路線バスへの乗車体験を実施する予定となっております。また、広瀬小学校の4年生、5年生につきましてはカリキュラムの関係から、事前に色々のご検討頂いたのですが、実施までには至りませんでした。それでは、既に実施いたしました3学年について、その授業内容についてご説明させていただきます。

まず、低学年での取り組みという事で、鶴巻小学校1年生の授業内容となります。鶴巻小学校の1年生では「国語」の「じどう車くらべ」の単元に関連させ、提供教材の「いろいろな乗りもの」を使用して頂き、さまざまな乗り物の紹介をおこない、バスや地下鉄といった「公共交通機関」について学習して頂きました。「いろいろな乗りもの」についてはお手元の参考資料3といたしましてお配りしております。また、その後、バスノートを使用し、バスの乗降方法や、車内マナーについての学習を行っています。もう一度、お手元の参考資料3をご覧ください。今回、作業部会の方でさまざまなご検討を頂き、既存のバスノートを改良したもので授業を実施して頂きました。主な改良点としましては、乗車から車内マナー、降車までの流れが分かる構成に変更しております。また、車内マナーについての内容を充実し、以前あったクイズを削除しております。また、バスノートでの学習を一通り行った後に、床にビニールテープを貼りバスの車内を模して、そこで学習した乗降方法や、車内マナーについての疑似体験学習を行っています。

乗車体験では、路線バスタイプのバスを貸し切り実際の路線バスに乗り降りする手順で、整理券を取り、停車ボタンを押して、降りる時には整理券とお金に模した紙片を料金箱に入れて降りる練習をいきと、帰りの二回行いました。行きでは、料金投入口が分からず戸惑う児童も居ましたが、帰りは降りる時もスムーズに降りられていました。また、今回は富沢の地下鉄車両基地や市営バス霞の目営業所を見学し、地下鉄車両基地では地下鉄の整備状況、またバス営業所では低床バスなどさまざまな種類のバスや、バスの整備状況、また門型洗車機を使い、乗車したままでの洗車体験など、バス・地下鉄に関して興味を持ってもらえる内容となっております。移動中の車内では、バスに関連した紙芝居、バスクイズや大型バスの歌などを歌い、バスを身近に感じて貰えたと考え

ております。

続きまして広瀬小学校の2年生になります。広瀬小学校では「生活」の「広瀬やさしさたんけんたい」に関連した学習を行って頂きました。事前授業の前半は、公共施設について「みの回りがあるみんなのための場所やもの」について振り返り学習をし、「館内では走ったりせず、静かに利用する」など公共施設での利用マナーについての学習を行い、バスについての学習に移行しました。バスの乗降方法などを習ったあとに、先程の公共施設の利用マナーと同様に乗車中のマナーについての学習の流れで授業を組み立てて頂きました。先程の鶴巻小学校も、同様だったのですがお配りしているバスノートを、電子黒板に映し出して電子黒板を中心に授業を実施してしております。当初は、紙媒体のバスノートの使用を想定しておりましたので準備出来ておりませんでした。現在はお手元にありますようなバスノートのPPT版を作成し、鶴巻小学校の3年生では活用頂いております。

広瀬小学校の2年生は、路線バスを貸し切って学習単元の目標である「公共施設の見学」を行っております。当初は行き先が広瀬図書館の予定でしたが、バス移動という事で行き先をメディアテークに変更して頂いております。ここでも、鶴巻小学校の1年生と同様に、実際の路線バスと同じ手順で、整理券を取り、降車ボタンを押して、料金箱に整理券とお金に模した紙片を投入するなどの乗降体験を行っております。また、車内でも紙芝居やバスクイズなどを実施して頂き、バスへの関心を高めて頂く取り組みをして頂いております。

低学年では二校で実施させて頂きましたが、授業の事前・事後で2回、クイズ形式のアンケートを実施しております。個々では事前正答率の比較的低かった事例を紹介させて頂いていますが、最も低かったのは料金投入口になっております。バス料金箱には両替等のさまざまな投入口がありますので、乗車体験のない児童には難しかったと考えられます。また、仙台市内のバスでは後部ドアから乗車し、前部ドアから降車となっておりますが、こちらについても若干正答率は低くなっております。また、前回での委員会でもご意見のあった「保護者アンケート」も実施しましたが、家庭内でも授業内容について楽しそうに話す児童が多くおり、バスに対して非常に楽しく体験していただいたことが伺えます。また、冬休み前の実施でしたが、冬休みを利用して保護者と乗車したという児童も見受けられます。アンケート調査の結果につきましてはお手元の参考資料4をご覧ください。

低学年で、今年度事務局からご提供させて頂いた教材になります。一つ目は「いろいろなもの」こちらは鶴巻小学校の1年生で電子黒板を利用してさまざまな乗り物、またバス・地下鉄などの公共交通についての学習に使用して頂きました。また、バスノートですが、先程説明しましたように、既存のバスノートを作業部会での検討を踏まえ改良し、「乗車から降車までの一連の流れを示す」「車内マナーについて」の項目を付加したものとなっております。また、紙芝居ですが、こちらも従来から行っていた紙芝居ですが、環境問題や渋滞対策など公共交通の役割についてキャラクターを用いて分かりやすく紹介している内容となっております。

まだ乗車授業は実施していませんが、鶴巻小学校の3年生で実施した事前学習で使

用した教材になります。中学年では実際の路線バスに乗車して目的地まで移動する事を予定しておりますので、インターネットの検索画面を使用して路線バスの時刻や料金を調べるための教材を作成して、使用して頂いております。一つ目の「じこく調べ」ですが、昨年まちづくり政策フォーラムで作成した「みんなのお出かけ調べ」をもとに作成しておりますが、検索画面の操作マニュアルに特化した形で作り替えております。特に3年生ではパソコン操作に不慣れな部分もありますので、検索画面が進む段階毎の操作方法を提示する内容となっております。また、5年生での経験をもとに、調べた結果を書き入れるワークシートを別資料として作成しております。また、バス路線図も提供しており、目的地までの距離や小学校から目的地の方向を学ぶなどに活用頂いております。

続きまして高学年での取り組みになります。鶴巻小学校の5年生で実施した「総合的な学習」の自主活動の授業になります。仙台市科学館を目的地として、グループ毎に「地底の森ミュージアム」「ユアテックスタジアム」を中継地点に、自分達で乗車計画をたて、自宅から自主移動する内容の授業となっております。事前授業ではインターネットを使った「時刻調べ」を行っております。教材としてはバス、JR、地下鉄の乗車時間を調べる方法を、操作マニュアル的に整理した教材となっております。

高学年で使用した教材としては、参考資料3に付けております「時刻調べ」になりますが、こちら「みんなのお出かけ調べ」をもとに検討を加えましたが鶴巻小学校での利用を想定しており、インターネットでの検索操作について順を追って説明する内容となっております。また、バス路線図を使い、目的地の位置関係や距離などを調べるのに活用して頂きました。以上で、今年度実施した授業内容についての概要の報告を終わります。なお、詳細なものを参考資料2としてお手元に配布させて頂いておりますので、後ほどご参照願います。

○事務局（五十嵐主査）

引き続き今年度実施した授業での課題について説明させて頂きます。

ここでは、同じ教材を使った事もあり、鶴巻小学校1年生と広瀬小学校2年生について「低学年」としてまとめさせて頂いております。また、高学年につきましては実質鶴巻小学校5年生の取り組み結果に基づくものとなっております。まず低学年についてですが、学習教材等については、今回付加したマナーの部分で、大きくは3項目「席にちゃんと座る、手すり・つり革を持つ」「優先座席の譲り合い」「車内で大きな声で騒がない」だけでしたが、前回委員会からもご提案ありましたが、席だけでなく支払い時にちゃんと待てるなどの、「いたわる心」や、窓から手を出さない等、マナー学習の充実の必要があると考えております。また、授業実施して頂いた先生からも、低学年では環境問題などに関連をさせるより、「のりもの」として捉えた方が子ども達には分かり易いという意見や、紙媒体より電子黒板を使用した授業が進めやすいと言った話しを頂きました。また、教室で疑似体験（乗車練習）できる教材を充実させてほしいなどのご意見を頂いております。また、授業実施の中でも、先程先生からご意見があったように、電子黒板を使用した方が、児童の集中を持続させる事ができる事や、教室内で学んだ事をすぐに実践できるような教材の提供が必要かと考えております。先生からのご意見で

は、料金の支払いが困難である事から、事前に練習できたり、今回は「行き・帰り」で2回の練習が出来たのですが、やはり複数回できるメリットを先生も感じていらっしゃいました。全般的には、児童は非常に興味を持って参加でき、保護者アンケートからもご自宅で色々と話してくれたことが伺えました。また先生の方から、低床バス体験に興味を示している事から、福祉的な内容の授業との連携も考えられるのではないかとのご意見も頂いております。

つづきまして高学年の方ですが、こちらは児童だけで出掛ける校外学習に向けての授業でインターネットを使って時刻や料金を検索する事前授業を行いました。提供した教材では、調べた事を書き入れる欄を同じ冊子にしていたのですが、操作手順を教える教材と、調べた事を記入するワークシートは分離した方が使いやすかったと感じております。また、バスや鉄道の上り・下りの概念、乗り換え時間などの教え方に困難さを感じました。また教材作成当初は路線図上からバス停を見つけてクリックする検索方法を想定していたのですが、事前のデモンストレーションの中で、路線図で仙台駅と小学校の位置関係を把握することが困難である事から、五十音での検索方法に変更したという経緯もございます。先生からのご意見としては、五十音検索が分かり易く、路線図と併用することで、目的地の方向や距離の把握が出来た。また、今回は市営バス、地下鉄、JR仙石線の3つの公共交通機関について時刻しらべを行ったのですが、それぞれが別サイトでの検索になりますので統一サイトで検索できると、調べる手間も少なくより親しみやすくなるのではないかとのご意見も頂いております。また授業実施上の課題ですが、インターネットを使った検索ですと、コンピューター室のPC台数の制限もあるので実際操作する児童が偏ってしまう傾向がありました。実際の校外活動では、児童だけの移動も特に問題もなくスムーズに出来たようで、公共交通機関を利用する自信を深めています。また、今回は「秋のジュニアパス（バス・地下鉄の一日券）」の期限がギリギリのところでも活用しましたが、通年使えるようにすると期間を問わず校外活動がやりやすくなる。とのご意見も頂いております。その他のご意見としましては、仙台市交通局の検索サイトでバスプールの乗降車位置の検索画面が別途調べられる様にはなっているのですが、時刻・料金しらべと一緒に調べられるようにすると使いやすい。とのご意見も頂いております。「今年度実施した授業での課題」の説明は以上の様になっております。

○菊池委員長

はい、ありがとうございました。資料で言いますと8ページから19ページまで、ちょっと長い資料にはなるんですけども。議事とはなってございますけれども、今年度実施した授業のご報告と、事務局あるいは現場の先生からいただいた問題点・課題点などをまとめさせていただいてご報告させていただいたという事になっています。

これまでの説明につきまして、短い時間でしたのでざっとした概要しか説明いただけなかったと思いますので、何かもう少し掘り下げて聞いてみたい点とかございますでしょうか？

参考資料4の方にですね、実際にアンケートの結果ですね。これは低学年だけですね、

それについてまとめております。実際どのような事を聞いたのかという事が後ろのほうに、非常に簡単にシンプルな4問しか無いんですけども、こういった事を聞いています。また、保護者の方々にもご協力いただきまして、非常に簡単なアンケートをさせていただきました。

○熊谷委員（オブザーバー）

すいません、よろしいでしょうか。私の方から、冒頭からのお話で恐縮でございます。アンケートの件が出ましたので、子ども達に伺ってきた事の補足で説明させていただきます。実際に乗車体験をした結果「バスの乗り降りの仕方が分かった」「それから運転手さんが優しくかった」「環境に優しい」。もうちょっと対話しながら、どのように優しいのかっていうのを聞くべきだったんですが、そこまでやってきておりません。お年寄りや身体の不自由な人の事を考えていた、という感想がありました。これは子どもからの感想です。それから冬休み明けに子ども達に聞いたところ、クラスの半分程度の児童が家族で市バスに乗って出かけたという。これが子ども達から出てきた感想でございます。乗車体験をした結果、今まであまり家族でのバス利用などといった事があまり無い実態があったのですが、冬休みに乗車体験を踏まえて市バスに乗って出かけた、半分程度が、という感想がありました。それをご報告申し上げます。それから中学年ですが、社会科で1月下旬に授業を実線してございます。単元名が「宮城県のことを調べよう」。ただ実際の乗車体験ではなく、社会科の学習の中で、カリキュラムの中でですね、鉄道・バスなど公共交通機関を利用して自分の決めた宮城県内の目的地へ行くという授業でした。単元名が「宮城県のことを調べよう」という事なんですけれども、例えば自分の家から陸前落合駅までバスで行って、それから仙山線に乗って仙台駅に行って、そこからおじいちゃんおばあちゃんのいる石巻駅まで行く。それを鉄道・バスなど公共交通機関を活用しながら自分なりに計画を立てて、それでおじいちゃんおばあちゃんの家に行くという、机上の授業という事になりますけれども。そういう授業でした。ただ細かいところまでの路線が無くて、実際に到達する事が出来たという実感を与える事は出来なかったという、教師からの反省が出ております。子どもも同じではなかったのかなと思います。4年生の子どもには難しかったねという話は授業後にしたところでした。それから5年生ですが2月の中旬、来週か再来週、今日に間に合わなくて大変申し訳ないんですが。市バスを利用しまして「公共放送局のはたらき」という事で、NHKの見学の際、ご協力いただく事になってございます。補足でございました、以上でございます。

○菊池委員長

ありがとうございます。今年度の取り組みの取りまとめに関しましては、また事務局のほうできちんと精査していただきます。その他何かご質問などございませんでしょうか。米澤校長先生から何か、またこんな現場の先生の声があったというお話があればしていただけますか。

○米澤委員

鶴巻小学校の実施した、低学年・高学年、いずれにおいても今ご説明があったとおり。それまでは乗車体験といっても、皆で移動してそこで終わりという、単なる移動の手段というか。そんな感じだったら自分で行き先を調べて自分でお金を払って自分で乗る。自分で色々な体験をしたという事で、非常に身近なものだという意識を持ったと思います。それに低学年なんかはそういう経験を必ず家に帰って親に言います。そしてもう1回原点に、自分でお金を払ってもう1回バスに乗りたくて。そういう事でやっぱり休み中に家族でバスに乗ったりして出掛けたというのは多かったようです。ですからそれは低学年の体験をベースにしつつ、総合的な学習や環境学習あたりに、カリキュラムとしてきっちり位置づけておくと非常に有効だと思います。

○菊池委員長

ありがとうございました。鶴巻小学校でも広瀬小学校でも、児童がその後家族とバスに乗ったという報告を聞いて、非常に嬉しく思ったんですけども、事業を実施したタイミングも良かったのかもしれませんが。冬休みの前という事ですね。いずれにしましても、そのようにその後家族と一緒に乗ってもらったというのは非常に良い授業プログラムじゃなかったかなと感じております。ありがとうございました。その他何かありますか。

○堀越委員

前回お休みしてしまいまして申し訳ございませんでした。本当にここにおいで委員の皆さま、特に米澤校長先生それから社会科の高橋部会長先生、あと熊谷校長先生、本当に実際このようなかたちで計画が出て、しかも単なる計画じゃなくて授業までしていただいて今のお話があったという事、すごい取り組みが出来たと思い本当に感謝したいという気持ちでいっぱいです。そういう中で、昨日私地下鉄とバス利用しているんですが、ちょうど地下鉄に乗ったら高校生がですね、年配の男性に席をゆずる姿を昨日夜7時半くらい、仙台から用足しをして帰るところだったんですが、そういう事を行っている高校生がいるという事ですごく嬉しくなりましたね。出来ればその年配の男性がありがとうございますと言って座ってくれればもっと良かったんですけども、なんか断ってしまって、高校生は下を向いてばつが悪そうに、結構混んではいたんですけども、下を向いて眠ったような、そんな残念な事が。今熊谷校長先生それから米澤校長先生から、やはり体験が生きているなという、そこをですね、まさにこれから大切な、言葉と体験というそういうかたちでいくんですけども。やはり体験すればそれを伝えたいと思うのが人間ですし、やはりやった事が身に付く。よく職場体験をやると、中学2年生が職場体験をすると、食卓が賑わうと。それはやはり普段と違う事を行って、家の人にそういう事を話し、そして親の働いている姿も改めて見るとかですね。やはり親も普段マイカーしか運転していない人でも、じゃあ乗ってみようかという気持ちに繋がるのかなと。そういう事での広がりというのを感じました。本当に感謝しております。2つちょっとお聞きしたかったのは、紙芝居、18ページのところです。低学年の課題のところで、紙芝居の内容が難しかったとあるんですが、そこら辺どういう事だったのかももう少しお話いただければありがたいなという事と、それから本当にバスノートも色々工夫されているん

ですけれども。例えばバスに乗る時に、イラストのアリちゃんとコテツくんですか。例えばバスに乗る時と降りる時に、細かい事なんですけど、アリちゃんは降りるから正面で良いんでしょうけども、乗る時にコテツくんがこっちを向いているんですね。乗り込むのであれば後ろ向きで、ステップを上がっている、そういうイラストになるともって子ども達にとって見れば、理解が進むのかなと。もちろん試作版という事だとは思いますが、そんな事を感じました。紙芝居の事をちょっとお聞きしたいなと思いましたので、よろしく願いいたします。

○菊池委員長

では事務局のほうで回答お願いいたします。

○事務局（五十嵐主査）

紙芝居のほう、参考資料の3のほうにも添付させていただいておりますけれども、こちら低学年でも、まあ理解は出来るようなかたちでの紙芝居の内容にはなっているんですけども。バスのマメちゃんとラビット男爵ってこの紙芝居でございます。今回先生にお願いしまして、バスの中でこの紙芝居を先生に読んでいただいたんですけども、やはりバスの中で紙芝居をやるっていう事が、ちょっとバスの中揺れるという事もありますし、あと音がですね、どうしても通らないので後ろの方が声が聞こえないとかですね、あと揺れる中で先生も一生懸命読んでいただくという事もあると、ちょっと不安定な中で読んでいただいたりという事もありまして。紙芝居なので子ども達座席に座っているんですけども、絵が皆に見えないとかですね、そういったところもありまして、バスの車内で紙芝居をやるっていうものについてはなかなか学校の先生も大変だという事もありまして。紙芝居自体、教材として活用は出来るかとは思いますが、ちょっとバスの中でやるという事に関してはちょっと難しいのかなというところを感じておりました。あとバスノートに関しては色々意見をいただきまして、また修正してですね、次年度の教材としてさらに、より良いものにしていければ良いかなと考えておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

○菊池委員長

バスの中で移動中の子ども達が退屈するのを避けるというのがありますし、何かせつかくの時間ですからそこで何かもう1つアクセントを置こうという事で、この紙芝居は手軽に実行出来るんじゃないかと思ったんですけども。やはりこの内容がですね、バスに親しもうという事でバスに乗っているんですけども、これで教えている紙芝居が、公共交通の意味に近いものですよ。そういう事で、内容的にも教えにくかったという事もございますし、事務局の方から説明もありましたけれども、やはりバスの中で立って紙芝居持ってますと、手すりを持ちましょうと言っている先生が持たずに喋るわけですから、なんとも非常に難しい。ですから教えるタイミングを変えればこの紙芝居も活用出来るものではないかなと思っております。

○堀越委員

内容とやる場所とかなんですかね。ありがとうございます。

○門田委員

何度も授業のご案内いただいたにも関わらず、1度も伺う事が出来なくてとても残念で申し訳ありませんでした。ご参加下さった方々のお話を伺いたいと思っておりました。それから今回説明頂いた、理論的な背景の中で、私、環境団体からという事で参加させていただいてるわけなんですけど、低学年の先生のご意見の中に、環境問題を絡めるよりも乗車体験とした方が分かりやすいというところ。確かに本当に率直な意見が出たと思っております。環境問題はどうしても、なじみが薄く、どうしても公共交通機関を使う時に環境問題は補足的、動機づけの要因にはならなくて、背中を押す要素にはなると思うんですけども。どうしても説明として最後にとって付けたような感じになってしまい、本当にその存在をどう扱って良いのかという部分が、難しいなあと思いました。例えばこの低学年・中学年・高学年の流れ、先生が、5ページに入ってありましたけども、高学年のところに、総合的な学習、どこかでその後押しになるものが、そして環境問題の事も感じてくれれば良いのかなあ。もう少しこの先生のご意見、どうしたら良かったんだろうというお悩みでしたら、そのあたりも支援して。もし私たちから何かご提案だとか、出来る事があれば考えて出したいと思えました。よろしく願いいたします。

○菊池委員長

ありがとうございます。熊谷校長先生と米澤校長先生の方で、何か現場の先生から環境の学習を絡めるにあたっての課題と言いますか、工夫と言いますか、苦労と言いますか、そういうものがございましたら紹介いただきたいのと、また、事務局の方で全ての授業に参加されていますので、見学させていただいておりますので、また何か気付いた点などあればご発言いただきたいんですが。その前に少しだけ私の方でお話しさせていただきますと、やはり環境の課題って大人でも難しいんですよね。動機づけのためには非常に難しく、私も研究の中でやっていて苦労するのは、例えば二酸化炭素はこれだけ出るんですよっていう事を訴えてもピンとこないんですが、それをですね、二酸化炭素の量をお金に換算してあげるとピクッと反応してしまうんですね。ですから環境というものの影響の大きさっていうのが、やはり大人でも把握しきれない。子どもにそういう立場で教える以上、なかなか難しいので、何か工夫が必要だなとも思いますし、ご提案いただいたように、低学年からそういう事を教えなくても、少し基礎となるような環境というのがどこかで絡んでいるなというのだけ頭の中に入れておいてもらえれば、将来考えてもらえるのかなという風には感じております。何か現場の先生から、環境の話題を取り扱う事の工夫点あるいは苦労点などございましたら。

○米澤委員

公共交通機関を利用すると環境に優しいんだというのは知識として理解するのは割と容易なんです。でもそれが生活の一部として体験を通して、生活の一部としてある種の

事実として子どもに根付くかどうかというのはまた別問題だと考えていますので。生活総合っていうのは体験を通して学ぶ学習です。かつて環境学習が入った時に酸性雨の原因を考えるなんていうのが流行った事があるんです。その時に子ども達が出した結論はこういう結論で、酸性雨の原因は向上の排煙に含まれる亜硫酸ガスだと。じゃあその原因を作る工場の操業をストップしたら良いだろうと。そして発表したわけですね。理屈はそうです、でも「ちょっと待ってください、あなたが着ているその服は、排煙を出している工場で作った服ではありませんか、あなたの生活の中で操業をストップしたらどういう影響が出るんですか。」そういうところまで思いが至りません。だから形式上に環境問題を教えていくと、やがて表面的な事になりかねない。私たちが考えているのはおそらく子どもが自分の生活の中で、自分たちが出来る解決方法は何なんだろうかと。そしてその事から実際、さっき事実としてと申しましたが、そうすると実行する、その事が生きた学習、生きた知識になると私たちは考えています。ですから例えば1年生が公共交通機関、バス・地下鉄に親しんで数多く利用するようになる。そしていずれ3年生4年生の総合的な学習の時間、環境の学習なんかが入ってきた時に、結果として自分たちは数多くバスや地下鉄に乗る事によって環境に優しい生活をしていたんだと、気が付けば良いのではないかと、こんな風に考えています。ですからこの委員会で提案する6年を通したカリキュラムの方針っていうのは私はそんな風に位置付けています。小学校の6年間の中でいかにこの問題を複合的に組み合わせて最終的な6年生の総合的な学習の中で環境問題として捉えていく。そのためのカリキュラム編成として補助教材の整理が必要だと考えます。

○菊池委員長

高橋校長先生。社会科の中で環境って今使う事はあるんですか。具体的にどのようなかたちで。

○高橋委員

やっぱり今米澤校長先生も言ったように、私も実は授業をした、若い時は環境問題を取り上げて授業を実はしたんですけども。確かに子ども達はそういうのは理解出来るんですよね。知識として。将来マイカーを持たない生活がじゃあ、あなたはやりますかと。あなたのお父さんお母さんどうでしょうかね、みたいな話をした時に、それはまた別なんですよね。知識としては確かに、ドイツの自然林が枯れたっていうスライドを使った授業を私はやったんですけども。これはすごいと、日本も酸性雨の問題を環境問題として取り扱いました。自宅で使う洗剤、排水から何からね、そういう風な部分も入っているんですよ。そういう事を教えるんですけども、理解はするんですけども、やはりそれと自分の生活と、自分がどうそういうのに関わっていくかというのはまた別な次元として捉えている。ペーパーテストをやれば理解はあがるんですけども、実際に自分で実体験の関わりで捉えるかと、自分はそういうような実践をするかという事はまた別問題だろうと。あるいはそういう事と矛盾と言いますか、そこにぶつかるというわけなんです。なので今私もこういうのを捉える時、まあ強制は出来ないし、あとは自

分の考え、判断だろうとは思いますが。だから今米澤校長先生が言ったように、そういった事をまず理解させて気付かせると。そしてこういう問題が起きているんだよという事をまず子ども達に意識させるという事が、我々として大事な事なのかなという。それ以上の事については、小学生という事もありますし難しいだろうなど。気付かせる事は出来ると思うんですが。

○菊池委員長

難しいですよ。

○米澤委員

例えば環境問題について、具体的に日本の社会のそういう問題が、深刻な問題として存在する、それを理解した上で例えば総合的な学習の時間に事実として、1生活の実践者として、自分がそれとどう関わっていくかという生き方の問題。それを考えさせて設問をしたら、自分の力で解決出来る事が、どんな小さな問題でも良いから1つ1つ解決していく実践出来る事は何かを詰めていくのが総合的な学習の目的だと思うのです。生きた学習とさっき申し上げましたのはそういう意味合いですね。それから、例えば社会科での環境問題を考える際、その時に公共交通期間を利用して、さりげなく環境問題について考えさせると言う事、あなたが今バスに乗った事でこんな風な貢献が出来たんだよっていう事を積み重ねていく。それだけでも違うんだろうなど。そんな意味で考えています。

○菊池委員長

5ページの基本的背景のところでお話ししましたけれども、やはり分かっているけども実行に移せないのは具体的にどうしたら良いのかっていう事が考えられないので、やはりそれを考えられるような教材と言いますか、そういった事が来年ですか、環境問題をきちんと位置付けるという事では教材の中に、その点は考えないといけないと思いますね。ゲーム的な。

○門田委員

そうですね。今先生がおっしゃった、バスに1回乗るだけでこれだけの貢献が出来るよっていう、その貢献メニューみたいながあったら、それが子ども達に分かるような感じで色々なものに置き換えられたらなど。そう言う風に思います。そういうものに置き換えられたら実践しやすく、それだったらここまでなら自転車で行こうとか。

○米澤委員

環境学習総合でやる時に何かワークシートのようなものがあって、子どもなりに簡単に換算出来るような、例えば学習でバスに乗って往復しました、そういう時にこれだけの二酸化炭素が削減されたんだよ。それを例えば1週間続けたら、グラフにしたり、表ををしていくこういう風になるんだよ。だから次年度につながっていくのではないでし

ようか。

○菊池委員長

次年度の取り組みとして、私も少しイメージは実は持っているんですけども、大人でもノーマイカーデーというのがありますので、子ども達も月に1回バスに乗ってみようという日を作りましょうと。そのためには何をするのかというと、例えば先月1ヶ月間どこに行ったかなという事を書かせてですね、このうちどれがバスを利用出来るかなという事を考えさせて、じゃあ次の1ヶ月間ここに行く時はバスを使ってみようという事を、本人にそれを計画させるんですね。1ヶ月後に本当にそこに行ったかなっていうのをチェックさせる。そういう事をやると自分で、ここに行く時はバスに乗りますと、書いた以上やっちゃうんですね。この書くっていうのがこの実行意図を高めるという事なので。そういった今のは調査と絡めながらですけども、ゲームと絡めたりとかですね、そういう事も色々あると思いますので、また色んなご意見いただきながらぜひ次年度に教材を作っていただきたいと思います。

○伊勢委員

遅れまして申し訳ございません。私は広瀬小学校の2年生の授業を拝見させていただきました。大変先生が普段の授業の中の学習に、うまくこのバスノートを取り入れてくださっていて、その工夫というか見事なつながり方であるほどなど。そんなやり方があるんだなど、大変素敵な授業を拝見させていただいてすごく感動いたしました。この今回の学習の目的っていうのはやっぱり、通常のカリキュラムの中に取り組みやすくかつ効果的に取り込んでいくっていうのをまさに実践された授業だったかなと思っております。そういう意味では、やはり各低・中・高に合わせて今までの授業の中にどういう風に取り込んでいくかという、低学年の生活総合であったりとか教科のカリキュラムデザインによると思うんですが。その中でじゃあ環境であったりとかっていうのをプラスする時に、やはりその環境を学習する学年のところに、他の教科との公共交通が連動してそれで広がりややっぱり、米澤校長先生がおっしゃったようにワークシートであったりテキストであったり、1つではなくていくつかこういう展開が出来ますよっていうようなものが視覚化されると良いのかなと思いました。1つだけだと先生たぶん扱う時に苦しいと思うんですね。なのでそれよりも公共交通でこういう学習と、このバス乗車体験が連動して更にそのプラスで出来る部分で環境を考えましょうというような項目で、例えばこういう二酸化炭素の排出量であるとか他の事例とかというのを、いくつかルートみたいなかたちで提示出来ると先生も、もしかしたら授業の中にさらに取り入れやすくなるのかなと感じました。あとはどこに組み込んでいくかっていうのは先生次第になるかと思うので、もしかしたらこういうのを考えられるメニュー的なものが、核となるものがあってメニューみたいなものがいくつかあると、各学年の先生方も取り入れやすくなるのかなと思いました。

○菊池委員長

私も3つほど意見が。見学させていただいたんですけれども、やはり今回ご推薦いただいた先生かなり力量のある先生をご推薦いただきましたので、非常に我々の想像を越える素晴らしい授業が展開されてただ関心して帰ってきたばかりなんですけども。やはりこれ広範に広めていくにあたってですね、どういう点に考慮した方がよろしいですかね。吉村先生いかがですか。やはり先生の力量に100%依存せず、採用してもらえような。

○吉村副委員長

教育っていうのはね、誰でも出来るってそういうものでも無いわけです。それこそね、先生が価値を認めてもらわないといけないなと思うんですけども。広瀬小学校の熊谷校長先生それから鶴巻小学校は米澤校長先生という事で、やっぱり全校をあげて体験から学習する。やっぱりそういう雰囲気为学校中に持っているっていう感じをしまして、別の機会だったんですけど福祉的な観点で米澤校長先生の鶴巻小学校の5年生の子ども達と車椅子体験をしたんですが、よく動ける、動きながら考えるって言う事が出来ますし。それから広瀬小学校の場合には大変素晴らしい、全国に発信出来る質の高い生活総合を中心とした取り組みをやっておりまして、やっぱりその時の子どもの様子を見てみると本当にやっぱりね、動きながら考えてるというそういう子ども達が育っているの、はっきり申し上げると、育っていくにはそういう、両校長先生からあるように、活動から学んでいけるようにそういう動きながら考える。また、考えて動く、そういう活動を日頃の学習の中で実践していく。だから逆に言うとやっぱりこういう学習を必要だという事で、そういう意味では、熊谷校長先生のお話に私大変感動しましたけど、子ども達の乗車体験から、運転手さんが優しいと。あるいはお年寄りに席を譲った。やっぱりそういう広瀬小学校、もちろん鶴巻小学校もそうですけど。常に学習の中で色々な人と出会いながら、人と出会って学ぶ事の楽しさというのを実感しているからそういう感想が出るので。ただ、今伊勢委員からありましたように、少しメニュー的な事を示すという事で先生方のハードルを下げた必要があるのかと、ちょっと矛盾した事を言っているように聞こえますけど教育の現実っていうのは、やっぱり学校全体で、そういう1つの活動から、やっぱりそういう学校に雰囲気があるか無いかで全然違う。

○菊池委員長

はい、ありがとうございます。初年度と言いますか実質的に半年ですけども、そこで色々な課題をいただいておりますので、ぜひともこれ次年度以降に反映させてもらいたいと思います。

(2) 平成23年度の取り組みについて

○菊池委員長

それではですね次の議題ですが、次年度の取り組みについて事務局の方から説明いた

だきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局（五十嵐主査）

それでは説明させていただきます。

今年度、平成22年度から平成24年度までの3ヶ年での大きな流れを示しております。今年度は交通環境学習を既存の教科単元に組み込んで頂く、取り組みとして鶴巻小学校、広瀬小学校のご協力の下、試行錯誤しながら模索し、実施した状況になっております。その中で、さまざまな課題や、取り組み方法のヒントなどを見出しておりますので、次年度はさらに進展させ、学習教材や指導の手引き、学習内容を確定していき、学習プログラムとして確立していきたいと考えております。また、平成24年度には全市的な普及・継続的な取り組みについての検討を進める事から、平成23年度でも普及などに向けての試験的な取り組みを実施していきたいと考えております。

平成23年度実施する授業の実施方針になります。基本的な考え方としては「先生の負担を軽減し、誰もが気軽に取り組める学習プログラムにしていく」ことを考えております。その中で、各学年の目標に応じた取り組みを確定していきたいと考えております。本年度実施の課題も受けまして、低学年では、「（みんなが使える）のりもの」として乗車体験を通じて、公共交通機関を身近に感じてもらい、親しみを持ってもらう事を主に考えていきたいと思います。関連させる教科については乗車体験に導入して行きやすいものを、場合によっては複数設定していく事も考えられると感じております。中学年では、現状の教科単元と照らし合わせてみますと、3年生の社会科での地域学習などで導入できるかと考えております。本年度は学年後半だった事もあり組み込みの機会を逸したところもございますので、次年度は早急に段取り、円滑に組み込める教科単元を見出していきたいと考えます。また、中学年で目標が「公共交通でおでかけができる」言い換えれば「公共交通に一人で乗れる」ようにしていきたいと考えておりますので、実際の路線バスへの乗車体験を取り入れた授業計画の策定が必要だと考えております。続いて高学年ですが、今年度はインターネットを用いた時刻しらべを中心に授業実施を行いました。この学年での目標は「公共交通を賢く使える」という目標ですので、「自分で調べて、自分で考え計画する。」だけでなく、色々な要因を考慮しながら移動に最適な公共交通機関を選択して貰えるように「公共交通の役割」について学習する機会を追加していく必要があると感じております。その際に、経済性や環境負荷など様々な要素考慮して、自分たちで乗車プランを比較しながら選んで貰えるような授業を行っていきたいと考えます。

このような方針を受け、平成23年度の具体的な取り組みとして、低学年では新しい指導要領のもと、組み込む教科単元を確定していくとともに、バスノートなど学習教材の内容の確定や、多様な媒体での作成を行います。また教室内でも乗降の練習が出来るような教材の作成や、指導の手引きを作業部会の協力を得ながら作成していきたいと考えております。また中学年では、現段階で円滑な組み込みが可能だと考える社会科授業の中での組み込み検討や、それに伴う授業計画の検討を実施していきたいと考えてます。また、高学年では様々な経路選択が可能となる鶴巻小学校で実施されていた自主活動的

な校外学習の市内学校の取り組み状況を把握するとともに、複数の経路選択や、それに伴う時刻・運賃調べが可能な教材、また、それらに環境などの要素を盛り込んで比較検討できる様な教材の作成に取り組みたいと考えております。

また平成23年度も実践校を抽出して、実施検証していきたいと考えております。現段階では予定ではありますが、継続性の観点から、今年度もご協力頂いた「鶴巻小学校」「広瀬小学校」には引き続きご協力のお願いをしていきたいと考えております。また新たに高橋委員のいらっしゃる「向山小学校」と全くの未定ではございますがもう一校、計4校程度で実践していきたいと考えております。先生方の異動などもあると思いますので、新年度の体制となつてから、改めてご依頼をさせて頂きたいと思っております。また、作業部会の持ち方や、新規実践校の選定につきまして菊池委員長とともに検討していきたいと思えます。

平成23年度の取り組みについては以上ようになります。

○菊池委員長

ありがとうございます。資料の20ページから23ページについてご説明いただきました。今年度の結果、反省から成果を踏まえまして次年度の具体的な取り組みについてご説明いただきましたけれども、何か質問やあるいはご提案ですね。ご指摘など様々な視点からご意見いただきたいと思っておりますけれども。

○鈴木委員

よろしいでしょうか。先ほどの22年度の授業の中でも環境問題を取り扱うには非常に難しいという話をいただきましたけれども。23年度のこの授業計画の方針プランでは、やはり具体的に環境関係は高学年で行う予定という事でしょうか。これ学年別とか、低学年・中学年・高学年といったようなステップごとに1つ2つ程度リンクさせていって、そこに6年間で一定程度の環境と連携した、環境に優しい交通体系みたいなものが実感出来るようなカリキュラムというのは難しいでしょうか。ちょっと質問だけの話なんです。それをやっていって当初、交通環境学習のための推進委員会とやって、この2つの目的として小学生交通環境学習推進委員会のスタートを考え、小学校の授業の中にこの2つの目的を組み込んでいく。難しく断面から効果的に、学習の機会を作ってあげる。交通機関によって二酸化炭素の排出量については差はあるんだという事を、中学生から高校生になってもステップの中で、そういえばこういう事を小学校の時に習いましたね、というような事があるだけでも効果はあったかなという風に思うんです。もし可能であれば先ほど授業の話にもありましたけれども、ゲーム的に行う。内容についてはちょっと具体的にお話しは出来ないんですけれども。そんな話もあると。難しいんでしょうかね。

○菊池委員長

ただいまのご意見に関しまして、何かございますか。

○米澤委員

私は実現可能だと思っています。というのは教育は困難だ困難だと言っていたのでは教育にはなりませんから。困難な事態をいかにして子ども達の前に提示して実現していくかっていうのが教育だと思っています。それはまず前提として可能な、これ結論としておきます。それは子どもの発達段階を追ってね、提示すれば可能だという前提です。例えば最初知るという事が必要になってきます。それでどういう問題が世の中で起きているのか、それは1・2年生はなかなか難しいとしたら3・4年生あたりで知識として入れて、次に考える。考える時ってというのは先ほど申しました、生活の実践者という視点ですから、必ずアクションプランを具体的な行動計画として子ども達に考えさせる事が目標なんだろうなと思います。そしてそれは中・高学年と重なる。そしてアクションプランをたてたら、やっぱり実際に実践してみる、そして実践して振り返ってみる。そういうプロセスで実現可能なやり方を考えていく、やっぱり振り返った時に、実は自分たちが頑張って、知って考えて実践した事がこんな風に役に立っているんだと。そここのところがとても大事な事です。例えば私の学校ではペットボトルのキャップを集めるエコキャップ運動に取り組んでいますけれども、これを800個集めると20円で1人分のポリオワクチン代になりますよと。子ども達ってというのは最初1人で800個集めると考えます、大変です。そしてなかなか集まらないから挫折します。そこで、鶴巻小は全校450人だから1人2個ずつペットボトルのキャップを持ってくれば1人の命が助かる。そんな風に話をしましたら、集まるわ、集まるわですね。だからそんなかたちで自分が2つずつ持って行くと1人助ける事が出来る。自分に出来る事を実践していく、自分の頑張った事が実感出来ます。そういう工夫をしながら、さっき申しました6年間のカリキュラムの中に各学年の環境学習を複合的に組み合わせていくという事で、実現可能な学習になると考えます。

○菊池委員長

前回の委員会資料であったかと思うんですけども、小学校の授業で色々な科目や教科があって、そこでもし交通あるいは環境と関係づけられるものという事でいくつかあげていただいたんですけども。私もすごく驚くほどの、色んなところに実は少しずつ取り扱っていただける可能性はあるなという風に感じてはおりますので、何か1つの教科で6年間というのでは無くて、やはりこの科目横断的に、あちこちに少しずつ話題を取り入れていただければと思っておりまして。ですから23ページのもう1つで4校に拡大したいというのは、やはりそういう意図もありまして、ご専門の教科ですね、今までと異なる先生に入ってくださいと、また少し広がるかなという風に考えておりますので、いただいたご意見をぜひ参考にして欲しいと思います。

○門田委員

最初に大前提になっているのかもしれないんですけど、交通環境学習という場合の公共交通について。大きくはバスだと思うんですけど、それ以外の部分、つまりJRや地下鉄など、それからバスもですが。地下鉄で仙台駅に出てくるようなエリアの小学校とか。

仙台はとても広いので移動手段と考えた時に、そのあたりを含めた公共交通として少し考えた方が24年にプログラムを作る時に、小学校の場所と公共交通機関の場所を繋げたら、バスが全然使えない、ちょっと教材として分かりにくいとかあるかもしれないというところで、まずはバスにしようという話になったんでしょうかと。ちょっとそのあたりが私きちんと整理する必要があると思います。

○菊池委員長

では私からで良いですか。今年度この委員会が夏に第一回委員会が開催されまして、具体的な活動を始めたのが秋になりましたので、新しく何か色々検討していくというよりは、これまでの取り組みを最大限に活用してまず初年度、色々やってみましょうとなりました。今までバスを中心にこの仙台市がですね、色々な教材を作っていたので今年度はまずバスという事になっておりますけれども。ご指摘いただいたようにですね、当然の事ながら鉄道を含め公共の乗り物という事で考えていきたいと思っております。

○門田委員

別な公共の乗り物に対する意識とか、どこまでが実際に出来るか分からないんですけど、その方が良いと考えます。

○菊池委員長

その他ご質問、ご意見などございましたら。次年度への取り組み案という事ですので、今年度すべて振り返っていただいて、色々な視点でご意見いただければと思いますし、この教材に関してあるいはアンケート結果に関してですね、こういう事を総合してこの場でご意見いただきたいと思っておりますけれども。事務局からお話しありましたけれども、次年度の作業部会の体制などについて別途検討させていただくんですけれども、是非この場ですね、皆さまから何かご提案とかありましたら。ポイントはいかにこれを持続的に活動にしていくかという事だと思うんですね。やはりいつまでもこの委員会を続けていくわけにも行きませんし、やはりそれは広範にそして持続的なものにしたいという、そういう体制を今この委員会が設置されている間に構築する必要があるとは認識しているんですけれども。是非色々なご意見をいただきたいですけれども。

○吉村副委員長

先生さっきのに私が加えるというか補いますと、学校全体の雰囲気が無いと駄目だみたいな話をしましたが、ちょっと誤解の無いように補足を。これからの展開という事で、とりあえずやっぱりやってみたいと思う先生をサポート出来る体制づくりっていうのがまずは1番大事なんじゃないかという風に思います。広瀬小それから鶴巻小の場合には、そういうやってみて常に生活と雰囲気が醸成されている。やってみたいと思う意欲もあるし、それなりの雰囲気をですね、大変高い意識を備えているので。やっぱりどの先生っていう場合に色々なレベルで対応できる事も必要だと。まずはその公共交通っていう事についてやっていく。そういう場合先生をサポート出来るかがまず第一段階じゃ

ないかなと。そこら辺、そういう先生が動いてくれば、そこは教師のコミュニティっていうのが、繋がってありますから。少しずつ線が広がってくれば。今の点がそこで線になって、次に全市的な普及っていう事を考えなきゃいけないんですけど、やっぱりいまだちょっとね、どういう公共交通環境を行って、どういう意味があるのかという、色々な先生にこれをやってみたいと思わせる仕掛けっていうのが。その時にこれはやってみたいと思う先生が、実績を見て、実践の事実っていうのは、公表していく必要があると思います。実際に行った子どもがこんな風に学習して成長してるっていう、その事実を見れば教師っていうのはやってみたいと意欲が高まりますので、やっぱりそこで広げていく。それでさっき伊勢委員が言った、メニューですね。実際はこういうメニューでこういう実績が学習効果としてある、というかたちで段階で考えていって。それでその後で先生がおっしゃるように広げていく。それからついでに申し上げますと、今日は非常に明快ですね、低・中・高と、それで最終的には6年間を通した目標、全体の学習目標として公共交通を交通手段の1つとして捉える。米澤先生の、子どもの実体験をしっかり捉える。子ども達の、発達段階はこうでして、そしてやっぱり大事な事は市民に伝えていく事。やっぱり環境がゴールですけども、どっちかと言ったらやっぱり低学年というのは、これ生活との関わりというのは、人と親しんでいって、そして人と自分との関係、そこがやっぱり重要なんですよ。やっぱり人とのつながりから社会の仕組みに気付いたり、自然に関心を持ったりという事なので。あんまりだから低学年の段階で環境環境っていうよりは、先ほど熊谷校長先生からありましたように、そういう、今回はバスでしたけど、バスでの色んな人とのね。やっぱり皆とっていうそういう意識が出来てるし、素晴らしい事だと。やっぱりみんなの交通機関だっていうのは、公共交通って子どもはそういう言葉は使わないし、まさに公共交通のポイントというのを皆で捉えていきますので、そこでやっぱりむしろ人との関わりの身近さを感じて、そして中学年あたりから実際さっき熊谷先生からお話しもございましたけど。少し知識、知るっていう事を学習し、そして高学年で応用する、実践出来るという事で今日せつかくですね、6年間のこういう見通しっていうのを立てていただいたので、結果としてゴールとして交通環境を考えられるように、少しく、低中高の流れとして考えたほうが私はよろしいように思います。ちょっと環境っていうのもね、特に低学年から入れてしまっっては。一応その効果的に組み込んでいく必要があるのではないかと。

○菊池委員長

先程からお話には出てはいますが、環境問題は難しいですね。教えるのがですね。大人ですら部分的にしか分かっていないので、それを純粋な疑問を持つ子ども達にどういう風に提示したら良いのか非常に悩ましいところなんですけれども。交通っていうのも実は漠然としすぎているような単語でありまして。環境もまた分からない。ましてや公共交通っていう漢字4つ出てきてしまうと、たぶん分からないんじゃないかなと。公共交通っていう単語を認識したのはだいぶ大人になってからじゃないかと思うんですね。バスとか鉄道という呼び方で、それ以上の括りがあるっていうのはかなり大人になってから使っている言葉なので。少しこの辺ですね、見直しながら言葉の使い方とどうい

メニューを作成していくのかという事もまた考えていきたいと思います。

○熊谷委員（オブザーバー）

今吉村先生のお話を伺っていて、ちょっと担任のほうに私インタビューしてきたんです。そして担任からですね、このような感想がありました。色々な内容が盛り込まれてある活動だと。ノートの内容も含めてなんですが。どこまでを取り扱うかが課題だったそうです。でも例えば、低学年は乗り方、たっぷり体験ですね。中学年は環境。高学年は活用。というように、指導内容を明確にして扱う必要があると感じたという。まさに吉村先生が今お話ししたような事を、2年生の担任が述べていたといった事を私の方からご説明いただきたいというのが以上です。それから、環境で言うと、先ほど来、米澤校長先生、それから高橋校長先生もおっしゃったとおりだと思います。同じ事の繰り返しで大変恐縮なんですけれども、例えば牛乳パックで燃やすと環境に悪いのでそれをすいてですね、紙作りをしよう。一生懸命になってほどこいてすいて、再生紙を作って、やってやったと。僕たち私たちは環境に優しい事をやりましたね、という事では誤った環境観を子どもに与えるだろうと。つまり牛乳パックを再生紙にするためには、まず牛乳をきれいな水で洗わなきゃならないですよ。あれを洗った水っていうのは汚水です。環境に良くないと。それから手数を考えただけでもなんらかのかたちで環境に負荷を与えるような、間違いの作業がその中に入っている。つまり環境学習を構築1つを取ってみても、黒白つけるものではないと。絶対こっちだけが環境に良くて、こっちだけは環境に悪いんだといった事はなくて、何をやったにしても環境に負荷をかけるんだけれども、でもどうする。そういう視点を常に指導者が持ちながら、そして子どもとともに考えていくと。それは低学年に分かる方法。中学年に分かる方法、高学年に分かる方法で環境学習っていうのを、まさに米澤校長先生がいつもおっしゃっているような部分ですね、概念をくだいたかたちで子どもたちに与える必要があるだろうと。そのように思います。そういう意味では先ほど言ったとおりですね、あるいは吉村先生がおっしゃったとおり、低学年で環境環境と言うよりも「たっぷり体験」を与える中でどういう問題があるのかなと。あるんだとか。これ、大人がやっても解決し得ない問題を子どもに強いるわけですよ。環境問題っていうのは結論が出ないわけですよ。それをでも大人になった時にあなた達が、あるいは今現在でもあなた達はその課題に向かっているんだよ、という視点を与えるような学習をですね、考えながら。この交通環境教育っていうのを進める必要があるのかなと。繰り返しになりますが、そのためには低学年の子ども達が「たっぷり体験」をして、中学年の子ども、詳しく知り、利用した結果、環境に対してどうだったんだろうという視点ですね。あるいはもっともっと豊かな活用のあり方というのは子ども達も考えられるんです。そういう組み方などしていくと、継続可能かなという気がします。すみません、長くなりましたが。

○米澤委員

関連してもう1つ。子ども達が環境問題が決して苦手だとか、そんな風には感じていないんです。例えばさっきご紹介したエコキャップの時、色んな話し合いをしていまし

た。大体話のまとめ方は、何個集めると何人助かる、そのポリオワクチンってどういうものでどこの国の子どもだって話をした時に、ある子どもが、学力は高くなかった子どもなんですけど、このエコキャップのキャップの処理工場を見学したいと言い出したんです。それで私どうしてって聞いたら、このキャップがどんな風に処理されて、どんな風に役に立って、どんな風に環境に優しいかそれを知りたいと。あの子がああいう事言い出したのが驚いたんですよ。だから子ども達って環境問題っていうのは基本的に関心は高いと思います。ただ切り口が環境として捉えにくいっていうだけの話なんですよ。ですから我々それを指導しながらうまく切り口を与えて、そしていつもあなたがやっている事はこんな風に役に立っているよと、子どもの実体験に訴えていく。そうすると意欲が持続していくと思います。ですから与え方、子ども達の思考のアルゴリズムっていうのをきちんと意識して与えていけば継続出来る学習だと思います。以上です。

○伊勢委員

よろしいですか。継続的な学習というところで熊谷校長先生が何度もおっしゃっているんですが、それをするにはやっぱり現場の先生達にはかなり厳しいところがあるかと思うんです。そういう意味でこの交通環境学習の根底は、やはり先生方も先ほどからおっしゃっているように、人とのふれあいであり、人と自分の関係がベースになっていると思うんです。そうした時にこの委員会でどこまで出来るか分からないんですけども、今回は仙台市の交通局さんの協力を得て、実際にバスの乗車体験だったりとかっていう協力をいただいているんですが、これを門田委員がおっしゃったように、鉄道だったり地下鉄だったりっていった時に、どこまで公共交通の機関の方達が協力いただけるか、その体験メニューとして協力くださるか、そしてその効果の体験っていう風に考えた時に、そのエコキャップの工場の方とかが協力いただけるかって、その先の繋がりが見えると、この学習にプラスして事前とか事後学習で行けるような実体験が出来る社会との結びつきが、人との関係が分かるような繋がりをこの委員会でもしかしたらプランとして、繋いで更に環境問題に活用していただけるようなプログラム提供が出来ると思います。あとはお金、予算が付いてる期間だけ考えて終わりました、では全く意味が無いと思うので、それを先に体験をする場所とか協力者というものも、ずっとどこが窓口になるかは分からないですけども、そういった体制、協力していただける機関の人たち、団体さんとかも1つの何かのプログラムの繋がりにしてご提供というか提示出来ると、先生方もどこにアクセスして良いのかとか、じゃあどういふところを協力してもらえるかが分からないのが現場の先生の大変さだと思うんです。そういったところをこの委員会を通して1つの体系的なものに出来ると良いのかなと思います。ぜひやっていただきたいと思います。

○高橋委員

実は私、あて職という事だと思うんですけども、5つの委員会に実は私参加させていただいているんですよ。今お話あったように、考えて、言葉はどう変えるか別として、やっぱり繋がるんですよ結局。それぞれの立場立場でお互いになっていっちゃ

るので。ある委員会の時には小中高の社会科の先生方がいて、結局行き着くところは同じ、そういう印象を実は持っていたので。23年度の方向性って言った時にはここには小学生交通環境学習推進委員会っていう委員会なんですけれども。色んな委員会に出ておまして、いっぱいあるんです。やっぱり連携が必要だなと。やっぱりゴール、目指すところは住み良い社会だったり、まちづくりだったり、環境だろうと思うんですけれども。その辺りを一本化するなりの調整を図らないと。社会科は3年生からですから教科としては存在しないので。その時に色んなものが入ってくるので、なかなか23年度から新しく学習指導要領が変わります。その辺の関連ですね、なんかこう整理していただければやりやすいというか。取り組みしやすいかなと。

○菊池委員長

非常に貴重なご意見ありがとうございます。伊勢委員からいただいた意見ですけれども、こちらは本当に貴重なご指摘だと思いますし、それこそ本当に必要であり、そしてそれが持続的に続くという点では欠かせないものだと思いますので、きちんと対応していきたいと思います。また、その委員会として提示する具体的な方向性ですね。これもやはり明確にして、色んなご意見をいただきながら進めていきたいと思います。また色々ご質問やご意見あるかとは思いますが、時間の関係もありますので。またこの委員会自体は次年度も継続しますので、色んなご意見を頂戴したいと思いますので、別途いつでも構いませんので事務局あるいは吉村先生にでもお寄せいただければと思います。よろしくお願いたします。

○堀越委員

今年度の取り組みに対する成果と言いますかね、それは例えば24年度にドンと出すとかでは無いような気がするんですね。やはり今年度このように年度途中から始まって、本当に特に3人の校長先生方にはご尽力頂いて、そして委員の先生方のおかげでここまで来たという、本当に驚きでもあるんですね。それでやはりその成果を少しずつ出しながら、高橋先生もお話ししましたが、〇〇教育っていうのは80以上あるという、そうすると交通環境学習という、またそれも、という。だからそういう認識を校長先生方のお話にも、まさにそこをなるべくオブラートに包みながらという事で、しかも総合的な学習時間は70時間という事で、ある意味であれもこれもという時代では無くなってきていると。そういう中で、でもこの魅力というのはやはり色んな教科の中で委員長さん、それから吉村先生おっしゃったように、色んな教科の中で少しずつ横断的に取り組めると。という事でしかも系統がはっきりしたという。だからそういうところを少しずつ年度の成果として先生方に少しずつお話しをしていくと。それがそういう取り組みが出来るんだなと。そういう風な発信の努力という事を少しずつ進むと良いのかなと。例えば生活・総合それから社会科の部会長さんいらっしゃるのですから、年に教科研究会というのが3回ありますけれども、例えばその2月は終わってしまうという事なんですけれども、例えば新年度の頭にですね、こういう風な取り組みをしてこんな活動があったんですよという事を、例えば第1回目の全体会議の部会長さんのご挨拶とか何かの

次第の中で、大体各学校から1人ずつ参加して参りますので。そこでこういくと、こういう風なバスの取り組みが出来るといふ、そういう資料提供から始めるとか。あとは次年度やはり継続的に取り組む事によって、例えば教育センターでは12月に教育課題研究発表会というものがあるのでそこでこういう風な取り組みを、逆に今事務局の皆さんにも入っていただいて、そして学校での実践、それを教育センターで20分という持ち時間はありますけど、そこで提供していただくと。そうする事によって考え方と実践を同じコマで2コマ続けてやると、また理論的なものと実践的なものという事で、そういう風な学習も展開出来るんだとですね。そういう風なカタチで少しずつ提供していくと、より取り組みというか関心も高まっていく、なるほどこういう風な事であと色々な市役所の各部署からも応援いただけるように、という風に伝わって行くのかなと思ひまして。そういう仕掛けもひょっとして大切なのかなと思ひました。

○菊池委員長

吉村先生や事務局とも広報と言ひますか、情報発信については1度検討した事がございまして、まず今年度これだけ実例がありますので、簡単なリーフレットのようなものを作成して出来れば全校にそれを紹介したいな、配布したいなと思ひていたところとございまして、ご意見いただきましたので、本格的に検討して進めてまいりたいと思ひます。ありがとうございます。

(3) その他

○菊池委員長

それではですね、議事の(3)その他に移らさせていただきたいと思ひます。今後の日程予定ですね、これについて事務局の方からお願ひいたします。

○事務局(五十嵐主査)

それでは説明させていただきます。

先程、鶴巻小学校3年生の乗車体験が2月18日に実施され、今年度の実践授業の予定が終了致します。その振り返りも含め今年度内に作業部会を実施し、次年度以降の授業計画の検討を進めたいと考えております。また、年度が替わりましたら平成23年度は夏休み前にも可能であれば実践授業を行っていききたいと考えておりますので、具体的な検討を含め作業部会、また委員の方々の異動等もございまして、出来るだけ早い段階で23年度の取り組みについての方針を委員会でお示しし、全市的な普及・啓発のための取り組みなどについてご検討頂きたいと考えておりますので5月中に委員会の開催を行えればと考えております。平成23年度は実践授業の進み具合もございまして、秋口に2回目の委員会を、また、年度末に第3回目の委員会を実施したいと考えております。次年度の予定につきましては以上となります。

○菊池委員長

ありがとうございます。今年度は夏以降から、具体的には秋から本格始動したわけですが、次年度につきましては、交通エコロジー・モビリティ財団のご協力のもとですね、年度の早い段階からスタートをさせていただく事になっております。これによって適応する授業の幅も広がりますし、また体験という事で外に出る事が多いと思うんですけども、やはり暖かい季節の時に外に出るタイミングがあるかなという風に考えております。また引き続きご協力のほどよろしく願いいたします。

その他、委員の皆様の方から何かございますでしょうか。はい、事務局の方から手が上がりましたので、お願いします。

○環境都市推進課

事務局の方からなんですが、環境都市推進課でございます。今日、レジュメの1番最後のページになるかと思うんですが、25ページのところで。今日ですね、DVDの映像を準備させていただいております。と申しますのは、この委員会の足立委員の方から申し出がございまして、この足立委員が理事を務めていらっしゃるわけですが、そのまちづくり政策フォーラムさんの中のグループ、一部門だと言う事だと思うんですけども、FEEL賞という、環境ショート映像3minコンテストというコンテストをですね、FEEL Sendaiという私の方で事務局は務めておるんですけども、環境に関するネットワーク組織がございまして、その中で毎年ショート映像のコンテストをやってございます。その中で今年度のFEEL賞の大賞という事で足立委員のところの団体、まちづくり政策フォーラム・交通を考える研究会さんの作品「かしこい公共交通の利用者になろうよ」が最優秀賞を受賞されたという事で是非委員の方からですね、この映像をご紹介したいという申し出がございました。ちなみにですね、このコンテストでございまして、環境をテーマにしました3分間以内のショート映像作品のコンテストという風になってございます。FEEL Sendai、先ほど申しましたけれども、杜の都の市民環境教育学習推進会議というネットワーク組織がございまして、ここが主催する環境フォーラム仙台という環境に関するイベント事業がメディアテークで昨年11月に開催してございますけれども、この中でFEEL賞についての表彰等も行っていました。目的といたしましては環境をテーマにした映像作品を制作していただきまして、公募という事で応募いただきまして、またそのイベント会場ではイベント来場者の方々に応募作品を実際に観賞していただくという事で、市民の方々にも環境について考えていただく機会を提供するという、そういう内容でやってございます。今回は19作品の応募がありましたけれども、そのうち今日ご覧いただくのが、大賞作品、その他準大賞3作品という事で4つの作品が受賞されたという状況になってございます。以上でございます。

○菊池委員長

非常に1分間の中にですね、素晴らしい情報が凝縮されているんですよ。公共交通というものをどういうものかっていうもの1分でちゃんと伝えられる、素晴らしいなと

私も拝見した時にただただ感心するばかりだったんですけれども。足立委員の方からご説明とかお願い出来ますでしょうか。

○足立委員

交通を考える研究会というのがありまして、そこでバスの乗り方、他にも色んな広報媒体を作っているんですけど、その1番最初のコマーシャルという部分なんですけれども、その他にメディアテークの方にもありまして。先ほど、門田さんの方からもご紹介頂いた、F E E L S e n d a i、環境学習を市民団体で行っているのですが。実は4、5年前から私たちまちづくり政策フォーラムも参加して、そこでも同じように公共交通って環境に良いんだよみたいなので、その時はペットボトルで二酸化炭素が1つ二つみたいな事を、車で来ると10個二酸化炭素を出すけど、バスで来ると3個で7個減るみたいなものを、無理やり表現した経験があるので。色々面白い取り組みをさせて頂いております。そういう事をやっている大人たちもいるよね、とか言っていたいただきながら、先生方もご覧頂ければと思います。

○菊池委員長

はい、ありがとうございました。今ホームページのアドレスが最後に出てましたので、是非アクセスしていただきたいのは、この他にもショートムービーたくさんあるんですよ。非常に興味深いものをたくさんここで紹介されますので、norimajo.cocolog-nifty.comですけど是非メモして帰っていただきたいと。

○環境都市推進課

まちづくり政策フォーラムさんだけでなくですね、受賞作品ありますけれども。こちらの方ご覧いただく場合ですね、F E E L S e n d a iのホームページか、仙台市のトップページからでも入っていけるようにはなっています。ただ今年度のF E E L賞の作品の映像動画はですね、まだアップされていけませんので、過去5年分のもの全部優秀作品等ですね、受賞作品をアップしておりますのでそちらの方併せてご覧いただきたいという事と、出来るだけ早く今年度のものもアップ出来るようにしていきます。

○菊池委員長

これはF E E L S e n d a iでグーグル検索でたぶんすぐ出てくるんですか。

○環境都市推進課

はい、出てきます。

○菊池委員長

「のりこ様」で出るんですかね、グーグル検索で。

○足立委員

たぶん「のりこ様」で出ると思います。

○菊池委員長

「のりこ様」で出ますか。では是非検索して、ショートムービーが本当に良く出来ているんですね、バスの乗り方であるとか、携帯でも見られるんですね。携帯でもアクセス可能という事です。それでは以上をもちまして、4番の議事の方を締めたいと思います。本日は色んなご意見まことにありがとうございます。それでは進行の方を事務局にお返しいたします。お願いいたします。

5 閉会

○事務局（菅原主査）

はい、ありがとうございます。それでは、最後に総合交通政策部の岩崎からご挨拶申し上げます。

○事務局（岩崎部長）

本日はどうも長い時間色々ご意見・ご指摘等いただきまして本当にありがとうございます。我々の取り組み、公共交通というのを中心に捉えていますけれど、取っ掛かり、1番身近なところで何か走っていると言うと、やはりそういったバスとか鉄道というのはあると思います。そういう身近なところから、そういう意味で環境にまでうまく繋がると、我々としても目指すところは皆さんのご意見と共に向かうだろうなと思っております。一方で、実は仙台の特徴があるのは、バスが結構発達しているのと、そして更にあと4年後になりますけれど地下鉄がもう1本走る事になります。つまり十字の地下鉄の路線網が出来るという事で、それに伴ってバスもまた少し変わっていくという事もあります。ですからそういう、これから変わっていく交通環境というものも、我々どういう風にして市民の皆さんにうまく受け入れてもらえるかなというところで、実は1番重要なのは、今小学生の子ども達が4年後5年度、地下鉄東西線を使ってくれるのかと。そういう期待もあってですね、是非小学生の皆さんには使っていただける公共交通機関になってもらいたいし、それについて指導していただく方には是非頑張っておられる指導出来るというようなかたちをご用意出来れば良いかなと思っております。その意味においては大変色んなご意見をいただいて本当にありがとうございます。また特に、今日は小学校の校長先生の皆さんの中でも鶴巻小学校の米澤校長先生には、今年度をもちまして退職という事をお聞きしましたので、最後にですね、抱負と言いますか、これまでの取り組みを踏まえて、ちょっとお話しをいただければという風に思います。

○米澤委員

今のお話いただきましたが、あと1ヶ月半で現職を退くという事になりました。先に申し上げたいのは、このようなかたちで仙台市さんが教育活動を手厚く支援していただいている、こういう機会を与えていただいたという事に本当に心から感謝申し上げます。

本当にありがとうございます。というわけで是非この教育活動に今後も継続して素晴らしいものにして頂ければ、そんな風な願いを持っております。広げるためにはある程度の戦略が必要だろうという事で、私なりにいつも考えている事があるんですが、まず何度も申し上げている事です。5、6年間を見通したプログラム、カリキュラムと言いますが、それらがどんな風に連携していくのか、その全体が見渡せると学校の教師っていうのは取り組むんです。そうした上で次の段階として各学年に重点的なのとか、典型的な学習活動を洗い出す、これが第2弾。第3弾はその学習活動の指導計画を用意する。今各委員さんから話があったように色んな機関との連携の事例を入れて、ここでこんな風にアクセスするとこういうサービスが得られるという事を具体的に指導案というかたちで、目の前にある問題を解消してあげる、その上でその指導案をサポートする教材教具を開発をするという、それを提示する。そして最後はいかに学校に提示するかという問題。例えば文化財課での出前授業っていうのをさせていただいていますが、生活総合の方でも、2回3回と文化財課の方にいらしていただいて、こういうサービスを積極的にどうぞと、そんな風な考えもしました。そうするとやはり増えるんです、利用者が。ですからこのように戦略的に、全市的に広げて行けたらなと。行けたらなと私が思うだけの話で4月からは実際に携われませんが、でも本当にこのようなかたちでこのような素晴らしい取り組みに参加させていただいて、鶴巻小学校の職員達にも、残された短い期間でお伝えしたいと思えますし、感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

○事務局（岩崎部長）

最後にちょっと言うのを忘れていました。最後にお配りしたパンフレット、これは昨年11月にですね、私ども総合交通政策部を中心にしながら、仙台市がこれから地下鉄東西線が4年後に開業しますが、22年から10年間で交通政策として取り組むべき方針を打ち出したものがこの仙台都市交通からの。平成32年までの間にどういった事をやっていかなきゃいけないか。そしてその中にはずいぶん大きな変革が色々出てきます。東西線も含めバスも、そして逆に将来高齢化、人口減少という社会問題の中でやっぱり出てきますので、どういう風に仙台市は立ち入っていくのかと。これを交通の面から見ていく、ある意味では仙台市民の皆さんのライフスタイルの提案まで関わってくるようになってくると思いますので、そういう意味ではこの交通環境学習っていうのは非常に根底にある中で非常に重要なメルクマールになると思いますので、今後ともどうぞよろしくお伝えしたいと思えます。以上です。

○事務局（菅原主査）

本日は長時間に渡るご審議、誠にありがとうございました。これをもちまして、本日の第3回仙台市小学校交通環境学習推進委員会を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。